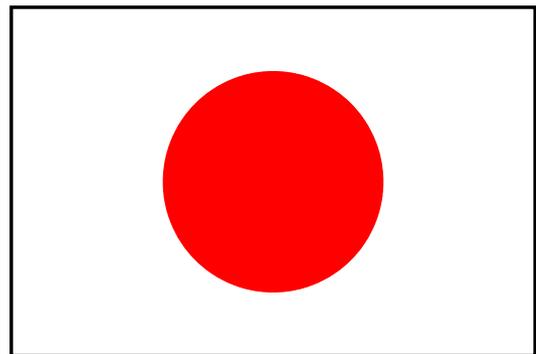


令和6年度

台東区中学生海外短期留学派遣

報告書

令和6年（2024年）8月6日（火）～8月15日（木）



《 目 次 》

あいさつ	2
台東区教育委員会 教育長 佐藤 徳久	
令和6年度 派遣団員名簿	3
令和6年度 海外派遣日程	4
海外派遣研修報告	5
海外派遣を終えて	15
派遣団長より	35
台東区立桜橋中学校 校長 関山 康紀	
引率者より	36
台東区立桜橋中学校 主幹教諭 佐野 奈津子	
台東区立忍岡中学校 主任教諭 佐久間 幹彦	
台東区立上野中学校 教諭 早川 竣	
台東区教育委員会 指導主事 山崎 俊輔	
あとがき	38

あ い さ つ

台東区教育委員会教育長 佐藤 徳久

5年ぶりに開催した海外派遣事業は中学生海外短期留学派遣と名称を改め、行き先もデンマークからオーストラリアに変更になりました。おかげ様で、関係する多くの皆様の御支援と御協力により、大きな成果を得て、無事に終えることができました。成果をまとめた報告書の刊行に当たり、御挨拶申し上げます。

本区では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催後、ますます国内外からの多くの来訪者を迎えています。未来を担う子供たちには、日本や他国の文化や伝統を学び、理解するとともに、互いの人間性や価値観などを尊重する態度を育てていくことが重要であると考えております。そのような中で、区立中学生を海外に派遣し、海外における生活や学習及び相互交流などを通して豊かな人間性を培い、国際社会において尊敬と信頼の得られる区民の育成を目指すことをねらいとしております。

派遣生徒は、6月23日のオリエンテーション、7月13日の結団式を含め、計8回の事前学習で、オーストラリアについて調べ、英会話、歓迎会やフェアウェルパーティで披露する歌、踊りの練習に励んできました。一人一人が役割を果たしながら互いに協力し、8月6日にオーストラリアへ出発しました。派遣生徒20名は現地の学校に4日間通い、土日を含む6日間をホストファミリーと過ごしました。今回は、学校の御厚意により、全員が学校の生徒の家にホームステイをすることができました。私は、今年度、生徒と2日間を一緒に行動し、歓迎会の様子と授業の様子を見ましたが、生徒が事前学習で学んだこと、練習したことを一生懸命発揮している様子を見ることができました。

本研修を通して生徒たちは、現地での英語を使って様々なコミュニケーションを行うことで、自他のよさや個性を知り、互いを理解し尊重する態度を学びました。また、派遣生徒として自分の役割に責任をもつことや、それに向かって努力することも学びました。

この報告書には、そうした、派遣生徒たちの多くの学びの成果が示されています。派遣にあたり、生徒一人ひとりがそれぞれの思いや願いをもって臨んでいます。現地の学校での授業体験や、ホームステイの際の戸惑いや喜び、不安や感動といった貴重な経験が報告されております。

派遣生徒として、学んできた英語を使って、日本や台東区の文化・歴史を積極的に伝えることができた喜びは、派遣生徒にとって大きな自信となり、台東区をより誇りに思うことにつながったことと思われます。さらに、交流校の生徒たち同士でコミュニケーションを図るとともに、オーストラリアの文化や習慣の理解に努めたことは、生徒一人一人の未来を拓く確かな力となることでしょう。

この経験をこれからの学校生活や自らの人生に生かし、未来に向かって国際感覚豊かに、明るくたくましく成長し、将来は台東区の発展に寄与されることを心より期待しております。

結びに、本事業の実施にあたり台東区長並びに台東区議会をはじめ、関係各位の深い御理解と御協力に感謝いたします。また、準備段階から御支援とお力添えをいただきました台東区立中学校長会、拠点校である桜橋中学校、上野中学校、懸命に準備を進めていただいた引率されました先生方の御指導と御尽力に厚く御礼申し上げます。

あわせて、派遣団を快く受け入れてくださったニューサウスウェールズ州、ノーザンビーチ市の皆様、ピットウォーターハイスクールの校長先生、教職員や生徒の皆様、派遣生徒を温かく迎えてくださったホストファミリーの皆様には深く御礼申し上げます、御挨拶とさせていただきます。

派遣団名簿

1 派遣生徒

学 校 名	氏 名
御徒町台東中学校	坪 井 玲 奈
御徒町台東中学校	中 山 皓 雅
柏 葉 中 学 校	中 里 茉 由
柏 葉 中 学 校	山 田 み の り
上 野 中 学 校	池 田 光 風
上 野 中 学 校	石 田 太 郎
上 野 中 学 校	磯 田 柚 月
上 野 中 学 校	高 塚 千 歳
上 野 中 学 校	長 尾 友 葉
忍 岡 中 学 校	新 井 拓 実
忍 岡 中 学 校	沼 本 彩 子
浅 草 中 学 校	幡 野 想 士
浅 草 中 学 校	松 尾 梅 乃
桜 橋 中 学 校	大 塚 瑤 眞
桜 橋 中 学 校	酒 井 優 仁
桜 橋 中 学 校	塚 原 香 穂 里
桜 橋 中 学 校	永 山 知 秋
桜 橋 中 学 校	林 彩 蓮
駒 形 中 学 校	小 林 里 帆
駒 形 中 学 校	安 藤 優 吾

2 引率者

	学 校 名 職 名	氏 名
団 長	桜橋中学校 校 長	関 山 康 紀
団 員	桜橋中学校 主幹教諭	佐 野 奈 津 子
団 員	忍岡中学校 主任教諭	佐 久 間 幹 彦
団 員	上野中学校 教 諭	早 川 竣
事務局	教育委員会 指導主事	山 崎 俊 輔

<オリエンテーション・結団式・事前学習>

忍岡中学校
忍岡中学校

新井 拓実
沼本 彩子

オリエンテーションでは、旅行会社の上原さんに丁寧に分かりやすく説明をしていただけたので、荷物の準備や出国の際に、スムーズに行動することができました。上原さんの説明は、笑いをはさんだ詳しい説明だったのでオーストラリアに行く実感がわきワクワクしました。

結団式では、台東区教育委員会の方々のお話をしっかりと聞き、僕たちが一生懸命考えた結団式の言葉を教育長に向けて話しました。緊張していてあまり覚えていないのですが、話し終わった時の嬉しさは覚えています。この結団式で、代表としての自覚が一気に高まりました。

その他にも、ALTの先生方との英語の勉強をして、日常で使うフレーズを教えてくださいました。私はあまり英語が得意ではないので、不安な気持ちがあったのですが、ALTの先生方が優しく丁寧に教えてくださったので、不安な気持ちが少し無くなり、「頑張ろう!」という気持ちになりました。この事前学習では、まだまだ派遣生としての自覚が足らず、少し叱られてしまう事もありましたが、どうしたらいいのかみんなで考えたり、協力したりして頑張ることができました。

この派遣に協力していただいた多くの先生方、教育委員会の方々、何より応援してくれた家族には、感謝してもしきれません。この経験を、今後の学校生活など、色々なところに生かしていきたいと思います。



<事前学習>

上野中学校
御徒町台東中学校

磯田 柚月
中山 皓雅

事前学習を通して、派遣団生徒一同は多くの成長をしました。始めの頃は、挨拶や担当する原稿を決める時にはすぐに手が挙がらないことがありました。事前学習は班で分かれて、オーストラリアについて調べることから始まりました。おどおどした状態から始まったものの、話していくうちに緊張もほぐれていきました。スライド作りは1人1台端末でそれぞれが黙々と取り組み、素早く終わらせることができました。また、8月14日のシドニー散策の際のコースも考えました。想像もできないオーストラリアでの予定を立てるのは大変でしたが、班内で協力して取り組むことができたと思います。しかし、台東区の代表としては足りないことがたくさんありました。私たちは失敗や反省を繰り返して、次第に自らの行動に強い責任感を持つようになっていきました。

私たちは、日本で有名な歌や伝統的な踊りであるソーラン節を仲間と一緒に踊りました。歌の音程を取るのが難しく、初めの頃は苦勞しました。また歌詞を覚えるのにも苦勞しました。「風になりたい」の歌では最終的に振り付けを加えるということに成功し、「世界に一つだけの花」ではソーラン節の踊りの合間などで一生懸命練習しました。そして、ソーラン節の練習で最初は踊りを覚えることだけでも時間がかかりました。それぞれの場面で少しずつ違うところがあり、完璧に覚えるまでだいぶ時間を使ったと思います。最も苦勞したのはソーラン節の踊り自体がまだ不完全のまま、隊形移動が加わったことです。踊りながら自分のいた位置から別の位置に移動するのはとても大変でした。しかし、歓迎会やフェアウェルパーティーで同じ学年の人たちの楽しそうな顔を見て、自分たちもやったかいがあったと感じました。事前学習を通して、少しでもオーストラリアのことについて知ることができたと思います。この体験を、少しでも自分の将来に役立てたらよいと思います。



< 出発式からオーストラリアの空港に到着 >

上野中学校 長尾 友葉
御徒町台東中学校 坪井 玲奈

出発式はとても厳かな雰囲気、派遣生徒だけでなく保護者の方や教育委員会の方々がいらっしゃって、とても緊張しました。しかし、緊張したのと同時に私たちは海外派遣の代表生徒でこれからオーストラリアに向かうという意識が生まれました。代表の言葉を述べたとき、2つのことを強く思いました。

1つは、オーストラリアの文化に実際に触れ日本文化との違いを学び、オーストラリアの人たちに台東区や日本文化を広めることです。もう1つは、自分たちの英語力を高められるよう、オーストラリアでは積極的にコミュニケーションをとることです。今回の派遣で得た経験を、自分の学校の人みんなに還元できるように頑張ってくださいと決意を新たにしました。ここまで事前学習や荷物の準備など様々なところで支えてくださった両親や先生方、そして海外派遣という貴重な機会をくださった教育委員会の方々に成果を報告できるようにしたいと思います。

出発式のあとは、一度家に帰って荷物の最終確認をして空港に向かいました。チケットの発券のとき、パスポートを初めて使って感動しました。そのあともう一度集合して、乗り場へ行く前に集合写真を撮りました。保護者と別れてからの荷物検査は、何もなくてよかったです。乗り場についた後少し時間があり写真を撮って過ごしていました。飛行機に乗った後、初めての長時間の飛行機ということもあり、荷物の整理に苦労しましたが、座席についた後、映画を見ることができました。ご飯を聞かれるときに日本人で念願の“beef or chicken?”と聞かれなくて、少し悲しかったです。飛行機はゆれていてあまり眠れませんでした。飛行機の中では、これからの生活で不安な気持ちもありましたが、日本と違う海外の学校での生活が楽しみでした。



<ブルーマウンテンズ見学・ホテル到着>

上野中学校
駒形中学校

石田 太郎
小林 理帆

ブルーマウンテンズ見学では、オーストラリアの自然や歴史について知ることができました。地形ではスリーシスターズという3つの岩を見ました。スリーシスターズは、横に3つ連続で並んでいる大きい岩で、自然の雄大さと荒々しさを感じることができました。気温は低く日差しは強かったですが、過ごしやすい気候でした。ケーブルカーに乗った際は滝を見ることができ、自然の恵みを感じました。その後、石炭採掘時の移動に使われていたトロッコに乗りました。トロッコの勾配が5.2度で、スリルと景色を楽しむことができました。

美しいブルーマウンテンの見学の後に宿泊するホテルへ向かいました。ホテルに向かう途中シドニーの街並みを見ながら移動しました。ホテルはとても部屋が広くて、ベッドが3つもありました。バスルームはトイレと湯船が一緒で、さらにシャワーヘッドしかついておらず、海外のホテルに来たと実感しました。夕食は市内のレストランへ行き、オージービーフステーキを食べに行きました。初めて食べたのですがとてもおいしくて感動しました。デザートには名前の知らないものが出てきましたが、とてもおいしかったです。寝る前にはホームステイ先で紹介するために同室の子と鶴を折ったり、手裏剣を折ったりしましたが意外と難しく苦戦しました。その日はとても疲れていたのですぐに眠ることができました。



< 歓迎会 >

桜橋中学校
桜橋中学校

永山 知秋
大塚 瑠眞

8月8日、この日はピットウォーターハイスクールで、歓迎会がありました。私はピットウォーターハイスクールに着いたとき、日本との違いにとっても驚きました。まず登校は、バスや電動バイクで登校する生徒が大半だったことです。それに、制服はスウェットのみが学校指定のもので、あとはみんな自由だったことです。とても個性が出ていて多様性を感じ、日本にはない素敵な環境だなと思いました。歓迎会はピットウォーターハイスクールの校長先生の言葉から始まりました。校長先生は、ピットウォーターハイスクールの施設や教育方針そしてノーザンビーチ市の自然や環境についてスピーチをしていて、少しだけピットウォーターハイスクールについて知ることができたと思います。当たり前ですが、英語で話す姿に「オーストラリアに来たのだ」と改めて自覚しました。感情が高ぶるのを感じましたが、それと同時に「オーストラリアでやっていけるか？」と少し不安になりました。

出し物の歌の「世界に一つだけの花」の歌詞の意味は伝わっていませんでしたが、手話を使い、伝わるように努力をし、満足のいく結果だったと思います。「風になりたい」は曲にあった雰囲気を作り出すために、全員で考えたダンスを取り入れました。この出し物のおかげで歓迎会の雰囲気が少し和んだと思います。ソーラン節は今まで練習をたくさん重ねてきた成果が出ていたと思います。暑い中、辛い練習を繰り返して揃えた振りつけや掛け声を本番できちんと発揮し、隊形移動やタイミングなどもみんなで作ることができ、良い緊張感、本気で取り組んできた、という気持ちや意志がピットウォーターハイスクールの方々に伝わったと思います。歓迎会も終盤になり、私たちのバディも発表されました。これから私たちはピットウォーターハイスクールでたくさんのことを学び、そしてオーストラリアの文化に触れ体験し日本の文化を知ってもらい、交流を深めたいと思いました。



<ホストファミリー対面とホームステイ>

上野中学校
上野中学校

池田 光風
高塚 千歳

今回の派遣の中で、ホームステイが一番心に残りました。初めてホストファミリーと対面したときは、とても緊張していて挨拶すらまともにできませんでした。しかし家に着き、お土産の説明や日本について話していると、熱心に話を聞いてくれて少しずつ仲良くなれました。ホームステイが始まってからは日本との違いが多く、慣れないことばかりでした。例えば、シャワーヘッドが動かせなかったり、ご飯の時間にお箸を使わなかったりしたことです。しかし、オーストラリアの文化にたくさん触れられて、興味深く楽しかったです。学校が終わる時間が早いため、平日も色々な所に連れて行ってもらいました。海に行って砂浜でバレーをしたり、冬なのに、太ももくらいまで海に入ったりもしました。ホストファミリーは皆優しく、困っていたら声をかけてくれたたくさん私たちがホームステイをしたことで、日本に少しでも興味をもって来ていたらとてもうれしいです。

土曜日はホストファミリーが持っているボートに乗せてもらい、島に行ってカンガルーやアザラシを見ました。砂浜では、ホストファミリーの子どものアリシアと一緒に砂の城を作りました。印象的だったのは、アリシアに犬の絵かき歌のようなものを教わったことです。内容は、男が蜂に追いかけられたり、池に飛び込んだりとかかなり独特なものですが、覚えやすくて面白いと感じました。船の上では、お父さんに釣りを教えてもらいました。openなどの簡単な単語と動きで教えてくれて、分かりやすかったです。日曜日は、公園の変った遊具で遊んでいるところを動画で撮ってもらいました。とても楽しかったです。また、車移動の最中に曲を選ばせてもらえて、アナと雪の女王の日本語版を選んだら盛り上がったことが嬉しかったです。本当に親切なホストファミリーの皆さんのおかげで、とても充実したホームステイ生活ができました。



<ピットウォーターハイスクールでの授業体験>

駒形中学校 安藤 優吾
浅草中学校 松尾 梅乃

ピットウォーターハイスクールは校舎がいくつもある、とても広い学校でした。また、日本の学校よりも登校時間が遅く、車で送り迎えしてもらう生徒もいました。帰りはスクールバスがあって、無料で乗ることができました。2時間目と3時間目の間にモーニングティーという軽食を食べる時間があり、好きな場所で果物やお菓子などを食べて、おしゃべりをしながら休憩時間を楽しんでいました。お昼もみな思い思いの場所で食べていて、お昼を持ってくる人もいれば、買って食べる人もいました。生徒はみな、自由な雰囲気で学校生活を楽しんでいました。

ピットウォーターハイスクールの授業はあいさつなしで始まりました。授業によっては生徒の私語が多いようにも感じましたが、積極的で、発言が多かったのが印象的でした。授業は自由な雰囲気で進み、日本の授業よりも先生の話聞く時間が短く、活動する時間が長いと思いました。

選択授業では農業科学、ジュエリーデザイン、IT、メディア、芸術があり自分が興味のあることを授業で学べると知りました。複合授業では「JAPANESE」というクラスもあり、日本とのつながりがあるように感じました。また授業時間が各1時間と長いですが、1日5時間授業で日本よりも早く下校できることにも驚きました。私は、バスケットボールが好きなこともあり、休み時間には現地の子と一緒にバスケットボールをして遊びました。授業の内容を理解できなかった時には、バディや現地の友達が協力してくれて嬉しかったです。オーストラリアでの学校生活を、4日間体験できたこともとても貴重な経験になりました。私たち派遣生徒を迎え入れてくださったピットウォーターハイスクールの先生や生徒の方々、この派遣を再開してくださった教育委員会の方々、引率の先生方のおかげで私達は貴重な体験をすることができました。



<フェアウィルパーティー>

浅草中学校
柏葉中学校

幡野 想士
山田 みのり

私達はホームステイ先やピットウォーターハイスクールの方々に5日間の感謝の気持ちを表すためにフェアウェルパーティーを行いました。私はそこで司会を務め、感謝を伝える事が出来ました。歓迎会、このパーティーと二度にわたり行った歌や踊りは、歓迎会の時に比べ、パーティーではより良い出来にすることができました。皆、歓迎会から時間がたっていたこともあり、不安が大きかったと思います。パーティーの司会中、私も台本を読み間違えてしまいました。ですが、その読み間違いが笑いを誘い、周りの緊張も少しほぐれたのか、戸惑うことなく歌い、踊りることが出来ました。私自身、司会で失敗してしまい大きな不安に駆られました。皆の支えがあり、何よりもピットウォーターハイスクールの皆さんの温かい声援や、心遣いがあり、無事に司会をやり遂げることが出来ました。パーティーでは、皆さんの楽しんでいた姿を見られて、私たちはとても良かったと感じています。

私は、英語力に自信がなく、たくさんの人の前で話すことに苦手意識があり、今回のフェアウェルパーティーがとても不安でした。パーティーはまずピットウォーターハイスクールの方の演奏から始まりました。外国の映画で見るとようなカッコイイ演奏に釘付けになり、音と共に不安も飛ばしてくれるような演奏でとても感動しました。自分がいさつをする番になり、緊張していましたが、ピットウォーターハイスクールの皆さんが盛り上げてくれ緊張がほぐれ、リラックスして話せることができ、ピットウォーターハイスクールの方の優しさを感じることができました。最後のお別れの時には、今までの思い出をホストファミリーと振り返ることができ、別れが惜しくなりましたが、ホームステイも含めて5日間の感謝を伝えることができました。最後まで楽しめて後悔のないフェアウェルパーティーになったと思います。



<シドニー視察>

桜橋中学校
桜橋中学校

塚原 香穂里
林 彩蓮

8月14日、私たちはシドニーへ視察に行きました。雨が降るとの予報でしたが、ホテルを出たときは曇りで、雨は降っていませんでしたので良かったです。それまでの9日間は主に勉強やコミュニケーションの取り方、意見の伝え方に苦戦して、ホームステイ先でも苦労することが多かったのですが、シドニー視察はそれらに比べると、とても安心感がありました。特に印象的なのは、オペラハウスです。オペラハウスではたくさんの写真を撮ったのですが、引率の先生を含めて全員で撮るには、誰かほかの人に撮ってもらうしかないという話になり、どう話しかければいいのかなどをみんなで話し合いました。最初は伝わるかどうか不安でしたが、最終的には伝わってよかったです。道を聞かなければならない場面もありましたが、次に通りかかった人に聞こうとみんなで話し合ったのも印象に残っています。必要なのは勇気だけで、話しかければ私たちにもわかりやすいように教えてくれたのは、本当に嬉しかったです。

私たちは、集団行動では時間に余裕をもって歩いたり次の行動に移すことが多かったです。逆に時間に余裕を持ちすぎてしまうと時間が余ってしまうということがシドニー視察で学びました。路面電車に乗った時、日本ではバスや電車の中であまり話したり食べ物を食べたりしませんが、オーストラリアではバスや路面電車の中で大きな声で話したり、食べ物を食べたりして日本との違いに驚きました。途中、雨が激しくなりズボンの裾や靴が濡れて大変でしたが、ロックスや動物園、大聖堂を見学しました。大聖堂に向かう広場では、木々の隙間からシドニー市内の大きくて高い建物が連なって見えてとても綺麗でした。シドニー市内は歴史がある建物と近代的な建物が混在していました。また、日本では見られないような鳥もたくさんいました。日本と違うところが多すぎてついていけない部分もありましたが、オーストラリアへ行かなければ気づけなかったことがたくさんあり、オーストラリアの良さ、日本の良さを学ぶ良い機会となりました。



<オーストラリアからの帰国・到着式>

桜橋中学校
柏葉中学校

酒井 優仁
中里 茉由

10日間のオーストラリアでの派遣研修を終え、私たちは無事、日本へ帰ってこることができました。オーストラリアでの10日間は、何もかもが新鮮で楽しかったです。オーストラリアでの学習の最終日、私たちはシドニー視察を終えて、ホテルへ一度帰った後にバスで空港まで移動しました。オーストラリアでの学習はとても楽しくて、とても短く感じました。そのため、空港に着くと「もうオーストラリアでの生活はお終いか。」という思いが浮かんできました。そして、手荷物検査や出国手続きを終えると自由時間ができました。夜御飯を食べたり、買いそびれていたお土産などを買ったりして、最後のオーストラリアでの時間を楽しみました。その間に友達と交わした会話のほとんどが、オーストラリアで体験したことばかりでした。10日間ではありましたが、多くの思い出ができました。友達の思い出話を聞いて、とても楽しかったです。自由時間が終わった後はもう搭乗でした。飛行機では各々自由に過ごしました。映画を見ている人がほとんどだったと思います。そして9時間30分のフライトを終えて、羽田空港へ着きました。飛行機を出るとじめっとして、気温は28℃。オーストラリアの気温がうらやましくなりました。入国審査などを通過した後は、モノレールと電車に乗って羽田空港から上野駅まで移動しました。ついに、上野駅に着き、パンダ橋方面の出口へ行くと、多くの保護者の方が迎えてくれました。解散式はそこで保護者に見守られながら行いました。

最後に、私たちはオーストラリアに行くために6月の終わりからたくさんの学習を重ねてきました。そのおかげでとても楽しむことができ、充実した10日間を過ごすことができました。またその中で、親や先生など、多くの方が私たちを支えてくれたことを忘れずに、台東区の代表として、オーストラリアで得た経験や知識をたくさんの人たちに伝えていきたいです。



人も土地も寛容

御徒町台東中学校 坪井 玲奈

オーストラリアへの派遣では、私が触れたことのない文化への、たくさんの発見があった。最初の発見が食の違いだ。飛行機の機内食を食べた時から、「多いなあ」とは思っていたけれど、オーストラリアにつくとその量がさらに増え、レストランやカフェの食事は、量も味の主張も凄くて食べるのが大変だった。特に、ホームステイ中に飲んだアイスチョコレートはびっくりするぐらい甘かった。しかし、そういった「日本では出会わないような味」に触れたときに、オーストラリアに来たということを実感できていたような気がする。もう1つは学校の自由度だ。私が見た限りだと、日本の学校と違い、先生たちが、ほとんど生徒のやることに干渉していないのだ。Morning tea や lunch を食べる場所であったり、休み時間の過ごし方であったり。一番驚いたのが、ピアスやメイク、自由な髪形をしていいことだ。そのためか全ての生徒の個性を見ることができ、日本では見られない光景だと思う一方、校舎内の落書きや授業中にゲームをしている生徒もおり、課題もあるのかな、と思った。また、校舎の面積がとても広く、建物はA～D棟までであった。学校でアルパカや羊といった動物を飼っていたし、そのうえ広大な芝生、バスケットコートや、森や川まであり、こういうところで学びたいなど、あこがれをもった。選択授業もあって、自分で受けたい授業を選べる仕組みが羨ましいと思った。

一方でやはり痛感したのがコミュニケーションの難しさだ。身近な人の言っていることが全く分からないことがあって、そのたびに翻訳機を使っていた。しかし、オーストラリアの人々はポジティブで、私の話を、相槌を打ちながら聞いてくれた。また、積極性はもちろん、慣れもかなり大事なようで、学校体験の初日より4日目の方がしっくり会話ができていたような気がした。この気付きは、私の今後の英語学習に影響を与えると思う。ちなみに、オーストラリアの人は、言葉をとても略す。よくみる鳥の Rainbow lorikeet は、Rainbow lokky に略されていたし、History は、向こうでは Hisie だった。ホームステイでも発見があった。私が見た中だと、オージーは家族とのスキンシップを積極的にとっていた。私のホストファミリーは両親と、二人の姉妹と犬のテディーの5人家族だったのだが、家族のことを”My honey”とか“Darling”と呼んだり、ハグやキスをしたりしていた。日本ではそういう愛する人への呼びかけはあまり見られないので、私にとってはとても新鮮なものだった。そして、ホストファミリーとの暮らしから、オーストラリアはイギリスの影響を強く受けていると感じた。イングリッシュティーを飲んだり、オリンピックでイギリスを応援していたり、エリザベス女王の記念硬貨を使っていたり。また、ホストファミリーとシドニー観光に行った時には、古い建物や橋にはイギリスの建築が反映されているように思えた。イギリスの植民地であったことを事前学習で学んでいたもので、その影響が今も色濃く残っているのだなと思った。

最後に、自然や観光の面の発見について話したい。まずオーストラリアの自然はすごく人と近いところにある。シドニーの中心部ですら海と近く、港町の雰囲気だった。都市部であっても底が見えるぐらい海は透き通っていた。ホストファミリーの女の子とその友達と行った MonaValeBeach では素晴らしい水平線と波浪を見ることができた。ホストファミリーの家はすぐ横に森とビーチがあって、朝日が昇ると同時に、十種類以上もの動物の鳴き声が毎朝聞こえてきた。また、家の近くにたまに小さなカンガルーが出るそうだ。町や学校には、黒鶺鴒の Ibis、カラフルな Rainbow lokky、オウムの cockatoo、鴉の si-gull、カラスの magpie、雀、鳩など、十種近い鳥を見ることができた。また、観光の面でいうと、料金が少し高く、動物園の入場料が約5000円、メントスが約350円。しかし、ハリポーは日本より安くてうれしかった。町は賑やかで、ホテルで寝ていたときに、路上ライブみたいな声が聞こえ、市街に様々な文字の電飾が見られた。とても明るく、また来たいと思える街だった。ホストファミリーやバディとの別れは悲しかったけれど、今回の派遣で、オーストラリアに対して、明るくて賑やかで、懐の大きい国だという印象を持った。まだ発見しきれていない「オーストラリア」を知るために、またいつかこの国に来ようと、そう強く思えた10日間だった。

オーストラリアで過ごした日々

御徒町台東中学校 中山 皓雅

私は今回初めて日本から遠く離れたオーストラリアに行きました。初めて家族以外の人たちとの海外なので親元を離れるというのは大きな不安がありました。飛行機に乗ってもなかなか離陸せず、いつ出発するのだろうと不安が消えませんでした。しかし、機内食を選ぶときに英語で聞かれましたが、答えることができました。夜の便でしたが、なかなか寝付けなかったです。オーストラリアに着いて急に寒くなり、オーストラリアだと実感したのを覚えています。初日はブルーマウンテンズに行きました。ブルーマウンテンズではトロッコやケーブルカーに乗って日本とは違う自然を撮ることができました。



翌日は朝にホテルのおいしいご飯を食べ、ピットウォーターハイスクールに行きました。歓迎会ではとても緊張しましたが、いい発表ができたと思います。また、バディの人や友達が、2日間とても優しく接してくれました。私の学校と比べ、パソコンを多くの生徒が使用していることに驚きました。また鶏や羊だけでなくアルパカも飼育していました。日本ではあまりアルパカを見る機会はないので、とても興味深かったです。放課後にホームステイ先に行きました。日本は玄関と決まったスペースがあるのに対し、ホームステイ先には出入口はあったのですが、玄関と決まったスペースがありませんでした。また外に出かける時に外履きに履き替えるときに家のどこで履き替えてもいいというのにびっくりしました。お土産のために持参した折り紙や風鈴や扇子、消しゴムでホストファミリーとの仲が深まったと思います。少し休憩してから庭にあった大きなトランポリンをホームステイ先の姉妹と私たちは4人で遊んだり、折り紙で鶴や手裏剣、コマの作り方を教えてあげたりし、あっという間に2日間が過ぎました。

土曜日では朝早くからマリンビーチに行きました。日本よりも水が透き通っていてとてもきれいだと感じました。珍しい貝殻などもたくさんあったり、足までですが海水に浸かったりもしました。その後は私のバディでもありホストファミリーのフランキーのネットボールの試合に行きました。そこでホストファミリーがイチゴを食べた時、残りの部分を原っぱの上に捨てたのでびっくりしてしまいましたが、これも文化の違いかなと思いました。ネットボールの試合ではフランキーのチームが勝ったのでとても嬉しかったです。その後はケンタッキーに行き、ハンバーガーを買いました。ドライブスルーで買ったのですが、これは日本と同じなのだなと思いました。そして日曜日は朝から都市に行くためにフェリーに乗りました。思ったよりも早くてびっくりしたし、とても揺れたのでバスみたいだなと思いました。行きも帰りもハーバードブリッジとオペラハウスが見られたのでとてもよかったです。都市では自分たちが住んでいるところとは違って少しレトロな雰囲気のある建物があったり、高層ビルがいくつも建っていたりと違った景色を見せてくれました。その日はマーケットで沢山の売店がありました。また、ホストファミリーのお誕生日だったので、ハンドクリームをプレゼントし、とても喜んでくれたので嬉しかったです。そして家族のためのお土産を買ったり、人生で初めてのカンガルー肉を食べたりしてとても充実した土日を過ごすことができました。

月曜日は学校から帰って来てから、フランキーの友達ダニカの家に行きました。海外派遣の友達がダニカの家のホームステイ先であえて嬉しかったです。一緒にウィッシュという映画を見ましたが、海外もディズニーが人気なのだなと思いました。火曜日ではフェアウェルパーティーでホストファミリーたちと別れるのがとても悲しかったです。最終日には班の人たちとシドニー散策をしました。雨が降ったり止んだりして天気には恵まれませんでした。シドニーでとても充実した日が過ごせました。

私はこの海外派遣を通してまた海外に行きたいと思いました。なぜなら、この海外派遣で自分の国とそれ以外の国との違う環境の中で過ごすのはとても興味深いものだと知ったからです。違う国で過ごすには勇気がいりますが、この海外派遣はまた外国に行きたいという私の背中を押してくれたものだと思います。この海外派遣がなかったら、違う国に行く事の面白みを知ることができなかったと思います。そしてホストファミリーや家族の人たち、この海外派遣にかかわってくれた人たちに感謝してもしきれないです。このような貴重な体験は一生忘れられない大切な思い出です。またいつか今回お世話になったホームステイ先に行きたいです。

初めての海外

柏葉中学校

中里 菜由

今回の海外派遣は、私にとって初めてのことで溢れていました。飛行機の中では「初めて海外に行くというワクワク感」と「言葉が伝わらない場所で8日間も過ごすという不安感」と「台東区、日本の代表として上手くやれるのかという緊張感」が渦巻いていました。

街を歩いたり学校に行ったりするうちに、沢山の日本とオーストラリアの違いを見付けることができました。特に学校では、違いが顕著に表れていました。オーストラリアの学校は日本の学校よりデジタル化はるかに進んでいて、ほとんどの教室にプロジェクターがあり、教科書や宿題はパソコンに映し出していました。また、黒板ではなくホワイトボードを使うことを知り、少し羨ましくなりました。街を歩いていると、車や家の形が様々で、オーストラリアが多文化社会であることを感じることができました。また、オーストラリアの食生活もたくさん知ることができました。オーストラリアにはコーラとスプライトが多く、ほぼすべての飲食店にありました。中には、テーブルの上に大きい瓶ごと置いてあるお店もありました。また、オーストラリアでは間食が多いと感じました。学校では「morning tea」という時間があり、生徒はお菓子やフルーツを食べていました。

オーストラリアの人はフレンドリーな人が多く、学校では挨拶をしてくれる人が沢山いました。そこで驚いたのは、「Hello」ではなく「Hi」を使う人がほとんどだったことです。また、カメラを持っていると「いいカメラだね!」とよく褒めてもらえました。中には、「僕の写真を撮ってよ!」と言ってくれる人もいました。

ホームステイをする中で私が一番大変だったのが、ホストファミリーの方々との会話です。私はオーストラリアに行く前は、「英語は比較的得意だし、少しぐらいは会話できるでしょ!」と軽く考えていました。しかし、実際は話すスピードは思っていた何倍も速く、分からない単語だらけで混乱してしまい、全然会話することができず、初日はかなり落ち込んでしまいました。しかし、ホストファミリーの方々は本当に暖かく、私が言葉に詰まっても言われていることが理解できなくても優しく「大丈夫だよ」と言ってくれました。そのおかげで少しずつ慣れることができ、会話ができるようになっていきました。また、ホストファミリーの方々は休日に色々なところに連れて行ってくれました。土曜日はタロンガ動物園に行きました。私はそこで、初めてコアラとカンガルーを見ました。今まで写真の中でしか見たことがなかったので、生で見ることができて嬉しかったです。日曜日は、海岸でピクニックをした後、灯台にいきました。最初「ピクニックをした後、



灯台まで散歩をするよ」と言われたので、海岸の近くに灯台があるのだと思っていました。しかし、実際には体感40度ほどある坂道を登らなければいけません。本当に大変でしたが、灯台の下からみた景色はとてもきれいで、頑張っただけよかったなと思いました。

最終日のシドニー視察では、セントメアリー大聖堂やオペラハウスなど、いろいろな場所に行きました。途中目当ての場所になかなかたどり着けないことがありましたが、班のメンバーで協力し、時々先生から助言ももらいながら、なんとか無事にホテルまで戻ることができました。



今回の海外派遣では、目に映るものすべてが新鮮でした。また、オーストラリアに関するたくさんを知ることができて、とても勉強になりました。そして、最初は不安なことや大変なことが多くありましたが、「ホームステイ」という滅多にできない貴重な体験ができて、応募してよかったなと思いました。

たくさんの学び

柏葉中学校

山田 みのり

私にとって初めての面接、オーストラリア、一人での飛行機、海外、ホームステイ。たくさんの初めてから幕を開けた今回の派遣事業はとても楽しく、今までで最も充実した10日間だったと私は感じた。この10日間で私は普段の生活では学ぶことのできない、たくさんのことを学べたと思う。その中から最もたくさんのことを学べた授業体験、ホームステイのことについて紹介する。

まず1つは、授業体験だ。ピットウォーターハイスクールでの授業体験は、英語を学校の授業でしか習ったことがない私にとって、初めてのオールイングリッシュの場だった。英語力があまりあるとは言えない私はこの授業体験をととても不安に思っていた。そんな不安をもちながら、ピットウォーターハイスクールでの初めての授業を受けた。初めての授業は、派遣生の仲間とオーストラリアについて、知っていることをホワイトボードに書き出す授業で、少し安心した。しかし、安心したと思っていたら現地の先生の喋る英語が想像以上に速く、うまく聞き取れず友達に言っていた意味を聞いてしまい、またも不安が倍増した。そんな不安に包まれながら、その後の授業も受けた。私が4日間で受けた授業は数学、理科、英語、歴史、技術、日本語、総合の授業だ。どの授業も図や式などがあれば意外と理解できるものが多く、想像していたよりも楽しく授業を受けることができた。そんな4日間の授業体験、学校生活を通して、私が衝撃を受けたことが2つある。1つは、学校の自由さだ。授業では毎時間自由席だったり、生徒が途中で教室を出ても先生は何も聞かなかったり、日本の堅い雰囲気の中では、絶対にあり得ない自由さにとても衝撃を受けた。もう1つは、学校が終わりのチャイムが鳴った後の帰る速さだ。日本では、チャイムが鳴った後もずっと喋っていたり、部活があって18時半ぐらいまで生徒がいたりすると思う。しかし、ピットウォーターハイスクールでは、14時半に終了のチャイムが鳴った瞬間、生徒たちが話す間もなくすぐさま家に帰り、チャイムが鳴ってから10分後には学校がもぬけの殻になっており、とても衝撃を受けた。この4日間の授業体験を通して、オーストラリアの学校はもちろん、日本の学校のよさについても改めて実感できた。

もう1つは、ホームステイだ。ホームステイは、私が今回の派遣事業で最も不安に思っていたプログラムだ。初日の授業では、図や式がなかったら先生の話していたことを理解していなかったと思うし、バディの子との会話もうまくできておらず、日本にいた時よりも不安が増していた。ホストファミリーと対面すると、先ほどまでの不安が消えるような、優しい笑顔で迎えてくれた。その笑顔にすごく安心することができた。ホストファミリーは、少し長い説明などは翻訳アプリを使ってくれたり、普段家族で話している時より少しゆっくり話してくれたりした。私達が頑張って伝えようとしている時も、目を見て最後まで聞いてくれるなど、本当に感謝してもしきれないほど、優しくしていただいた。放課後に家の近くビーチや、少し茂った林の中にある滝など、たくさんの自然が豊かな場所に連れて行ってくれ、オーストラリアの自然の豊かさを感じることができた。そんな中で私達との文化の違いだなと感じたことが2つある。1つは、車の使用量の違いだ。私達は、少し遠出をするときなどに車を使うことが多いと思うが、それ以上にオーストラリアでは移動をするときは常に車に乗っている。だから家のすぐ近所を一度も歩くことがないことに衝撃を受け、文化の違いだと感じた。もう1つは、食文化の違いだ。日本は主食、おかず、汁物など何個かお皿が出てくる食事形式が多いと思う。オーストラリアでは、ワンプレートで大きなお皿にカレーライスやチキンを挟んだパンのような食事が多く、お皿が一枚しか出されないことが驚きだった。他にも学校で食べるランチがおかしのようなものだったり、リンゴを丸かじりしたりなど、たくさんの驚きとともに食文化の違いを感じることができた。5日間のホームステイを通してたくさんの文化の違いについて特に学ぶことができた。私はこの10日間を通して言葉の壁を乗り越えた友情、優しさ、他の国の価値観、文化や学校生活の違いなど数えきれないほどたくさんのことを学ぶことができた。この事業での経験をたくさんの人に伝え、よりたくさんの人に国際社会への興味を向けてもらえるよう、頑張りたい。

オーストラリアで過ごした8日間

上野中学校

池田 光風

今回のオーストラリア派遣を通して、私は海外へ行くことの楽しさを知りました。

期待を込めて初めての海外に出発しましたが、空港に着いても、今からオーストラリアに行くという実感は全くわかず母と別れ、出国審査場を通っても気持ちは変わりませんでした。座席についてもなかなか離陸しなかったもので、ずっと緊張していました。機内食を選ぶときは英語で聞かれましたが、食べたいものを伝えることができました。少しずつ海外に行く実感が湧いてきました。夜の便でしたがあまり眠れなかったのを覚えています。オーストラリアについては急に寒くて「着いた」と実感しました。空港からはバスでブルーマウンテンズを見に行きました。トロッコやケーブルカーに乗って壮大な自然に触れ、良い写真をたくさん撮ることができました。ホテルについては、明日の歓迎会のことで頭がいっぱいでした。

翌日は6時過ぎに起き、ピットウォーターハイスクールへと向かいました。歓迎会ではバディの発表があり、緊張しましたが無事に終わり、授業になりました。やらなければいけないことが全く分かりませんでした。しかしバディが分かりやすく説明してくれて本当に安心しました。バディの友達も教えてくれ、私からも話しかけることができました。学校が終わり、ホストファミリーの家までは迎えに来てくれたお母さんの車で行きました。驚いたことは、家の中は「土足」だと思っていたけど「土足禁止」だったことです。それぞれの家庭によって習慣が違うことを知りました。お土産で持って行った食品サンプルや箸、お菓子などで盛り上がり、ぐっと仲良くなれました。次の日の学校生活は、目まぐるしく過ぎていきました。

土曜は車で塔を見に行きました。15分くらい段を登り、上からの景色を沢山写真に収めることができました。昼食の後は海に行きました。貝殻を拾ったり砂に絵を描いたりして、バディの妹タラと一緒に海に入りました。石を拾って水切りもしました。その日は疲れていたものでぐっすり眠れました。日曜は朝から、バディのイレーナがやっているサッカーを見学しました。とても楽しそうでした。そして午後はオペラハウスを見に行きました。そこまではフェリーで向かいましたが、海風が強くて驚きました。オペラハウスは想像していたより大きくて綺麗で感動しました。家に帰ってからは、ジブリ映画「となりのトトロ」とディズニー作品を見ました。ジブリ作品は、海外でも人気なことを感じました。

月曜は学校から帰ってきてラーメンを食べました。なんと日本のラーメン！聞いてみるとオーストラリアのスーパーマーケットに売っているそうで、久しぶりのラーメンは美味しかったです。しかもイレーナも日本のラーメンを気に入っていたので嬉しかったです。いつか日本で一緒にラーメンを食べたいです。夜にはイレーナからプレゼントを貰いました。手作りの指輪が入っていて感激しました。

学校最終日のフェアウェルパーティでは沢山のサンドイッチやお菓子を食べ、ソーラン節を披露してパーティーを成功させることが出来ました。

最終日には、班の皆で事前に決めていたコースを回りました。オペラハウスを見て、QVB (Queen Victoria Building) と動物園に行きました。初めて見る動物がたくさんいて楽しかったです。昼食は人気のクロワッサンを食べようと計画していましたが売り切れでした。ほかの種類のパンを食べましたがとても美味しかったです。その後はお土産を買い、大聖堂を見たあとにピザを食べ、あっという間に時間が過ぎました。飛行機は行きよりスムーズに審査を通過しました。少しだけ、旅慣れた気分でした。

着陸してからは、少し寂しい気持ちと、楽しかった思い出がいっぱいでした。初めて行く海外がオーストラリアで良かったです。なぜなら、他のいろいろな国に機会があればどんどん行きたいと思えるきっかけになったからです。また、ホストファミリーとして受け入れてくれた家族や現地の方、このような機会を作ってくださった台東区には感謝の気持ちでいっぱいです。オーストラリア派遣の豊富な経験を、これからの人生に生かせるようにします。イレーナとはこれからもずっと友達でいたいです。

感動の10日間

上野中学校

石田 太郎

今回、台東区中学生海外短期留学派遣では様々なことを学ぶことができました。

オーストラリア初日のブルーマウンテンズ視察では、スリーシスターズという3つの大きな岩を見学し、自然の壮大さを感じました。また、シーニック・レイルウェイと言うトロッコに乗りました。そのトロッコの勾配はなんと52度で、世界で最も急勾配の傾斜を走るトロッコ列車として有名です。最初は少し怖かったですが、乗って見たらきれいな景色とスリルが楽しめたので何度も乗りたくなりました。また、初日の夜ご飯ではステーキを食べました。少し噛みにくい所もありましたが、ボリュームがあり、味もおいしく完食出来ました。

オーストラリア2日目からはホームステイが始まり、現地のピットウォーターハイスクールでの授業体験も始まりました。ホームステイでは学校から帰ってきたらスナックやフルーツなどを家族みんなと一緒に楽しく食べる、おやつの時間があり、その日何があったかなどをみんなで話しました。そして、每晚寝る前に、マーベルやアイアンマンの映画をみんなで鑑賞しました。ホストファミリーが日本語の字幕を付けてくれたので楽しむことができました。

3日目は金曜日だったので、学校のあと、夜ご飯にホストファミリーとレストランに行ったのですが、そこでほかの派遣生徒と会い、みんなでピザを食べながら卓球台があったので遊びました。

4日目土曜日は、ビーチにいきピクニックとバレーボールをしました。ビーチのとなりにはプールがあり、海水をろ過して使っていて、冬でも泳いでいる人がたくさんいました。

5日目日曜日は船に乗ってカンガルーのいる島まで行きました。カンガルーがとても近くまで来たので、ツーショットをとりお菓子を食べながらカンガルーを眺めていました。直接接触することはできませんでしたが、かわいかったので心が温まりました。夜にはバーベキューをし、焼き鳥を作りました。鶏肉にたれを塗って焦がさないように慎重に焼いて作った焼き鳥は、自作ということもありすごくおいしかったです。

6日日月曜日はニワトリを学校の授業で抱きました。ニワトリを抱くのは初めてで、捕まえようとしても逃げられてしまい困惑しましたが、最後は捕まえて抱くことができたのでよかったです。

7日目火曜日はフェアウェルパーティーを行い、ソーラン節を踊って、「風になりたい」と「世界に一つだけの花」を歌いました。ホストファミリーとお別れをし、ホテルに戻って荷物を置いてスーパーマーケットに行ってお菓子などを買いました。夜ご飯はパスタを食べました。

8日目水曜日は朝ホテルでバイキングを食べ、シドニー観光をしました。まず、セントメアリー大聖堂を見てオペラハウスをみたあと、博物館に行きました。そして、クロワッサンの有名な Bourke street bakery (パークストリートベーカリー) でクロワッサンとサンドイッチを食べ、ワイルドライフシドニー動物園でコアラやカンガルー、タスマニアデビルなどを見ました。動物園で特に印象に残ったのは、カンガルーが種類ではなく何種類もいたことです。そして、観光を終えてお土産を買ったあと飛行機に乗り日本に帰りました。

今回オーストラリアに行ったことで、オーストラリアにはいろいろな人種で様々な価値観を持った人がいて、みんながみんなを尊重して暮らしていることがわかり、社会の多様性を感じました。また、簡単な英語やゆっくり話してくれた英語は理解できましたが、ネイティブのすごく速い英語や発音が全く理解できなかったのもっと発音や速さを英語の授業などで学んでいきたいです。国が違えど言葉が違えど、心で人は通じ合えると僕はホストファミリーと過ごして感じました。この経験が将来の自分のためになると信じ、お世話になったホストファミリーや学校の人達に感謝して、学んだことや感じたことを周りの人たちに伝えていきたいです。

海外派遣にて

上野中学校

磯田 柚月

私は初めての海外で緊張と不安が入り混じっていて、4日目あたりまでなかなか寝付けませんでした。オーストラリアに到着しても私にはまだ海外に来たという実感はあまりありませんでした。しかし、ブルーマウンテンズに行き、日本にはないような一面が空の大自然を眺めて改めてここが海外ということを実感しました。

8月8日の歓迎会の歌の紹介はしっかり言い切る事ができて良かったです。英語だらけで聞き取れない事がほとんどの中、ペアの子が優しく教えてくれたため、少し理解する事ができました。英語の授業では「フランケンシュタイン」の音読を聞きました。しかし、読むスピードが速く目で追うだけで精一杯でした。数学や技術の授業は一緒に問題を解いたり、工具を使って組み立てたりする事ができて楽しかったです。Pittwater High School はとても広く、鶏や羊を飼っていて衝撃を受けました。また、怖かったけれど鶏を触ることができました。授業は生徒が自分のパソコンを持っていて、授業は個人で問題を解くような事が多いように思えました。

ホームステイでは、ホストファミリーが日本から持ってきたお土産を喜んで受け取ってくださり、安心しました。そして、日本の伝統的な文化も紹介することができました。オーストラリアの食べ物は慣れないものも多く、サイズは日本より大きかったです。しかし、美味しい物も多くありました。上手に英語が話せなくても、単語やジェスチャーを使って意見を汲み取ってもらえて良かったです。8月10日には、ホストファミリーの子が習っているダンス教室の見学をしました。また、最後にホームステイの子と一緒に躍らせてもらいました。8月11日にはタロンガ動物園とマンリービーチに行き、その後、買い物に行きました。タロンガ動物園は21haあり、オーストラリアで最大級の動物園でその広さに驚きました。見たことのない動物がたくさんいて良い思い出になりました。また、ハーバーブリッジとオペラハウスを含むシドニーの景色を見られました。マンリービーチの海面と快晴でできた水平線はとても綺麗で声を失うほど感動しました。その綺麗な海では、真冬の中でも泳いでいる人やサーフィンをしている人がいました。その後の買い物では、自分の行きたいお店や買いたい品を自ら伝えることができ大きな達成感がありました。少しとはいえ、コミュニケーションがとれる度、達成感があり、積極的に会話に入っていく事ができるようになりました。8月12日にはパーム・ビーチに行き、ピクニックをしました。昼過ぎ頃に灯台に上りました。上りは傾斜で長い道を行き、下りは急なものの短い道を行きました。その時にホストファミリーの末っ子の子とたくさん話す事ができて、嬉しかったです。発音は速いものの単語を聞き取る事を意識すると、少し理解でき、会話をつなげる事ができました。頂上からはパーム・ビーチを眺めました。そこからはイルカの群れを少し見る事ができました。ホームステイでは料理中、積極的に手伝う事ができました。夕食ではタコスを食べ、とても美味しかったです。

8月13日はホストファミリーと過ごす最後の時間で寂しさがありました。しっかりお礼を伝える事ができました。フェアウェルパーティーはしっかり練習の成果を出せました。8月14日のシドニー散策ではお店を巡り、お土産を買ったり、アイスを食べたりしました。大聖堂は実際に見ると、写真よりとても綺麗に感じました。

私はこの海外派遣を通して、たくさん英語に触れ、知識を得たのと同時に見たことのない世界を知る事ができました。海外に行く楽しさを知り、また海外に行きたいと思うようになりました。抱えていた緊張と不安はオーストラリアの方々やフレンドリーに関わってくれたため、少しずつ無くなっていきました。特にホストファミリーの方々には感謝の気持ちでいっぱいです。ホームステイした5日間は新鮮で楽しい事だらけで最高の時間をプレゼントして頂きました。この10日間は多くの貴重な体験をし、かけがいのない思い出となりました。この経験を今後の学校生活、そして、社会で生きていく上で役立てていきたいと思えます。

中学生海外短期留学派遣 オーストラリアで感じたこと

上野中学校

高塚 千歳

「よし、準備完了」

8月6日、午前。リビングに広げた大きなトランクを閉めて、そうつぶやいた。

今日の夜には、オーストラリアへと旅立つのだ。そう考えると、少し不安なのと同時に、同い年のみなと海外へ行くことや初のホームステイに対してわくわく感があつた。中学2年生で海外留学。貴重な経験である。

14時に出発式があり、18時には羽田第3ターミナルに集合。飛行機に乗って映画を観ていたら思っていたよりも早く眠くなり、目が覚めると左右の窓から眩しい朝日が差し込んでいた。

シドニーに着くと、思っていたほど寒くはなかったが、涼しくて空気がひんやりしていた。1日目は視察で本当に一瞬で夜になってしまった。2日目は、Pittwater High school での歓迎会だ。終わった後、学校の案内をペアのアレックスがしてくれたのだが、日本の学校と比べてとにかく広くて驚いてしまった。その日から始まった学校での生活は、想像していたものよりもずっと大変だった。まず、アレックス含め現地の人たちの言っていることが全く聞き取れない。日本の学校の英語の聞き取りテストの比にならないくらい速く話すのだ。しかし、ジェスチャーなどでなんとなく言いたいことが分かったり、こちらが単語しか話さなくても分かってもらえたりすることもあり、大切なのは「分かろうとする気持ち、伝えようとする気持ち」なのだと考えた。

ホームステイ先の家族はとても親切だった。家は学校と同じくとても広く、ビダとレオという犬と猫がいた。お母さんはブラジル出身だと教えてくれた。ホームステイ先の同い年のジェイクもカバンにブラジルの国旗のキーホルダーを付けおり、ブラジリアン柔道もやっているそうで愛国心が強くて素敵だなと感じた。驚いたことは、まず朝晩がすごく冷え込むこと。部屋に暖房がついていないのでとても寒い。またファミリーがボートを持っていることも驚きだった。土曜日はそのボートに乗せてもらい、お父さんに釣りを教えてもらったり、オットセイやカンガルーを見に行ったりした。岩に乗っているオットセイたちがこっちを見たときに、お母さんが「They're looking us!」と言っていたのを聞き取れたことが、些細ではあるが嬉しかった。

浴室は、やはりオーストラリアの家なのでバスタブは無い。壁には2つのハンドルはあり、上のハンドルは熱湯、下のハンドルは冷水であり、熱湯はやけどするのではないかというくらい熱いので冷水のハンドルも少し回さなければならない。その部分の温度調節が最初は大変で、文化の違いを感じた。

充実した日々を送り、あっという間にホームステイ最終日に。8月13日、ホストファミリーとの最後の日であり、私が一番心配に思っていた日でもあった。私にはこの日のフェアウェルパーティで披露する曲「風になりたい」の紹介を英語でするという役割がある。自分の部屋や浴室で繰り返し練習したものの、やはり緊張する。言葉に詰まったり噛んだりしたらどうしよう。「世界に一つだけの花」を歌っている間、ずっと心臓がうるさかった。歌い終わり、司会の言葉の後、マイクが渡される。「I want to introduce a beautiful song to you. The name of…」一言一句はっきり、焦らずに。「…Please listen to the song.」最後まで気を抜かずに。拍手が鳴り響く。終わった、という解放感と安心で、思わずため息をついた。焦らないこと、落ち着くことが大切であると改めて感じた。パーティが終わり、ホストファミリーと会えるのもこれで最後であるのかと思うと寂しくなったが、「I hope to see you again.」と伝えると、多分日本に来年行くと言ってくれ、日本で会えることが楽しみになった。

私は今回の派遣で、海外の家庭にお世話になるというかけがえのない思い出と、コミュニケーションをとる上で焦らず、粘り強く伝えようとする気持ちが大切であるということ学んだ。今後の学校生活で、これらの経験を友達に発信していきたい。またこれからの人生でも、人と関わる上で、自分の考えをよりわかりやすく伝える、相手の意見を分かろうとするように努めたいと考えた。

オーストラリアでの生活

上野中学校

長尾 友葉

私は初めての海外でとても楽しみでしたが、不安もありました。出発当日は海外へ行くことへ実感がわかなかったのですが、出発式で代表の言葉を言ったときようやく「私たちは海外へ行くんだ」と実感しました。

その後、家に帰って荷物を確認してから、空港に行きました。私は一度だけ飛行機に乗ったことがあるのですが、羽田空港ではない空港であまり大きくなかったので羽田空港はとても新鮮でした。飛行機に乗ってから機内食（パスタ）を食べ、映画を見て過ごしました。初めての長時間のフライトと揺れていたということもあり、あまり眠れませんでした。オーストラリアの空港ではパスポートをチェックされる時には初めて少し英語で質問され、しどろもどろになってしまいました。ブルーマウンテンズではスリーシスターズ（岩）を見てケーブルカーなどに乗りました。ホテルに行く途中、オーストラリアの街並みを観察しました。日本の建物はあまり目立たない色をしているものが多いですが、オーストラリアの建物は色とりどりでもとてもきれいでした。

ピットウォーターハイスクールには動物（羊・アルパカ）がたくさんいました。また、日本よりも自由で皆メイクをしてアクセサリーを付けたり、お菓子を食べたりしていました。休み時間も多く、学校に食べ物を持って行って食べるということが多く新鮮でした。授業は日程の中で数学、国語（English）、歴史、理科、体育、ジュエリーデザイン、技術、ドイツ語を受けることができました。数学は問題が分かれば、バディと一緒に問題を解くことができました。国語（English）はフランケンシュタインについて学びました。何を言っているのか分かりませんでした。これが分かるようになれば英語が大分できるようになるなと思いました。歴史も何を言っているのか分からなかった。教科書を眺めていました。教科書に日本の武士について載っていて少しうれしかったです。理科では細菌（アメーバ）について学びました。体育ではフリスビーのゲームをやりました。体を動かすのは楽しかったです。ジュエリーデザインではバディに手伝ってもらいながら指輪を作りました。技術は日本とやっている内容は同じで安心しました。ドイツ語ではヨーロッパの国々をドイツ語で言うことを練習していました。

ホームステイ先では、初日にお土産を渡すことができよかったです。ビーチに2回連れて行ってもらいました。案外暖かく、海にも少し入りました。土曜日は山に登り、塔と絶景を見ました。ホストファミリーのお母さんが韓国人だったということもあり、ご飯があったので、日本のカレーを食べました。他にも一度キンパも出してもらいました。事前学習でご飯を残すことに忌避感がないと調べましたが、実際にご飯を残している様子を目の当たりにしてとても驚きました。日曜日はホストファミリーの子のサッカーの試合を見に行きました。そのあと、フェリーに乗ってオペラハウスを見に行きました。ホームステイ先の女の子がジブリやディズニー映画が好きだったので、たくさん見ました。お互いにおすすめのジブリを言い合い、コミュニケーションをとることができたと思います。

シドニー視察では最初にセントメアリー大聖堂に行き、写真を撮りました。次にオペラハウスに行き、中に入って見学しました。外のタイルだけ見ると日本の古びたアパートのようでした。パークストリートベーカリーではクロワッサンを食べました。おいしかったです。そのあとは動物園に行き、コアラなどを見ました。カンガルーは赤ちゃんの頃は私が知っている大人のカンガルーと違って面白かったです。カモノハシがかわいかったので、ぬいぐるみを買いました。夜ご飯は機内食の前に寿司を食べました。

帰りのフライトはすぐ寝つけて、日本にすぐ着いてしまいました。帰ってこられてうれしいと思う反面さみしいと感じました。

この海外派遣で、私は英語がしゃべれるようになったわけではありませんが、コミュニケーションをとることが前よりできるようになりました。他にも日本と違う文化に触れ学び、グローバルの視点を育めたと思います。この経験を活かし、今後の学校生活を送っていきたいです。

初めての経験であふれたオーストラリア

忍岡中学校

新井 拓実

僕は中学生海外短期留学派遣で自分なりに大きく成長できたと思います。事前学習の結団式、歌やソーラン節の練習、それら以外にも、5分前行動など当たり前のことを徹底して、行動する素晴らしい機会になりました。事前学習でも成長はしました。しかし、大きく成長できたのはやはり、オーストラリアに短期留学をしていた時だと、思います。なぜなら、事前学習で目標として決めていた、「日本語に頼らない！」ということを達成できたからです。

オーストラリアでは日本語は通じないので英語で喋る努力をしなければなりませんでしたが、どうしても伝えたいことを英語で何と言えればいいのかわからないときがありました。その時に、ジェスチャーや似た意味の言葉を使って伝えることも成長したことの一つだと思います。大きな達成感を得ることができました。

オーストラリアでの生活は、「難しい」よりも「楽しい」日々でした。ピットウォーターハイスクールではたくさんの子と友達になれました。バディ兼ホストファミリーの子はとても明るくて、ホームステイ中は毎日が最高に楽しかったです。バスケットをしたことはかけがえのない思い出です。学校には、モーニングティーがあったり、日本の学校と授業の取り組み方が似たようで違ったりしていたので、驚きや発見がとても多かったです。そして、日曜日に「CITY2SURF」という14kmマラソンにホストファミリーと、いとこ家族と一緒に参加させてもらいました。10万人以上の人々が参加するイベントだったのでスタートの時から人混みで、迫力がすごかったです。ゴール地点の「ボンダイビーチ」で写真を撮ったこと、砂のサラサラ感、透き通った海、目の先に広がる青い空、全てが心に刻まれました。コースの途中に見える景色やゴールした時の嬉しさを皆と分かち合うことができました。しゃべる言語が違っても、気持ちを共有できることの素晴らしさを知りました。



そんな最高の日々も、あっという間に終わってしまいました。ホストマザーが最終日に作ってくれた、とっても美味しいブリトーの味は忘れません。言葉では表しきれないほどの感謝の気持ちを、少しでも多く伝えて、学校へ向かいました。最終日の学校では、最後の授業が終わったときに日本語で、「さようなら」とみんなが言ってくれました。教室を出ていくときに、今までの学校での楽しかった思い出が思い浮かんできました。フェアウェルパーティでは、自分の全力を出し切れました。ホストファミリーや友達と会えるのがこれで最後かもしれないと思うと、思わず涙が出そうでした。最後はみんなとハグをして、写真を撮って、用意した黒Tシャツが欲しいと言うので、プレゼントしてお別れにしました。もっと学校にいたかったです。

最終日には、シドニー市内を一日観光しました。オペラハウスを見たり、有名な動物園に行って、人生で初めてコアラやカンガルーを見たり、他にもクイーンビクトリアビルディング(QVB)に行ったり、「バークストリートベーカリー」という有名なパン屋さんで、お昼ご飯を食べたりもしました。初めて経験することが多かったので、とても充実した一日でした。



これまでの生活で、たくさんの壁があったけど、それを乗り越えるためにたくさん考えることができました。こんな素晴らしい機会をくださった、台東区の方々、教育委員会の方々、ホストファミリー、オーストラリアの学校の先生方、ワールド航空サービスの方々には、感謝しかありません。この機会は、僕を大きく成長させてくれた素晴らしい機会になりました。

オーストラリアでの素敵な体験

忍岡中学校

沼本 彩子

私はこの中学生海外短期留学派遣事業に参加して、オーストラリアと日本との文化の違いに驚きました。人生初の海外だったので、驚きの連続でした。世界はすごく広くて、色々な文化があるのだなと思いました。

ピットウォーターハイスクールでは、学校の敷地がとても広くて、バディの子が学校を案内してくれましたが、広すぎてほとんど覚えられませんでした。バディの子は植物が好きで、日本にはないたくさんの植物を教えてくださいました。植物の名前はほとんど分かりませんでした。教えてくれたのがとてもうれしかったです。

にわとりや羊、アルパカなどたくさんの動物もいました。日本の学校はうさぎやにわとりはいても羊やアルパカなどはないし、忍岡中学校は動物を飼っていないので学校にたくさんの動物がいることにとっても驚きました。生徒の皆さんもとてもフレンドリーで、「こんにちは」や「おはようございます」「ありがとう」など、知っている日本語で話しかけてくれました。とても嬉しかったです。

何より一番驚いたのは、「モーニングティー」です。最初に聞いたとき「なんだ、それは！」と思いました。朝ごはんはシリアルなどの軽いもので済ますことが多いから、学校では10時ごろに軽食を食べるというガイドさんの話を聞いて、これがオーストラリアの文化なのか、と思いました。モーニングティーの時間、私はホストファミリーが持たせてくれたりんごやブラウニーなどを食べたり、バディとたくさんの植物や色々な種類の鳥、学校の校舎の写真を撮ったりしました。とても楽しくて、日本にもこの文化があればいいのにな、と思いました。

ホームステイ先では、家がとても広くて驚きました。ソファがいくつもあって、大きなプールもあって「すごい豪邸だ！」と思いました。ホストファミリーはクルーザーも持っていて、私たちも乗せてくれました。釣りをしたり、岩場にいる野生のアザラシを見たり、島に行ってカンガルーを見たりしました。野生の動物を近くで見ることができてとてもうれしかったです。

私がホームステイ先で日本との文化の違いを一番感じたのは食事の時です。日本では「いただきます」「ごちそうさまでした」を言いますが、オーストラリアではそのようなあいさつはしないので、目の前に食事が置かれたら、置かれた人から何も言わずに食べ始めることにまず驚きました。そして、食べ終わる頃に「もう食べないのなら、少し残してください」と言われ、とても驚きました。日本では食べ物を残すのは失礼なこと、と教えられるので「本当に残していいのだろうか…」と少し不安になりました。日本での当たり前は世界での当たり前ではない、ということを感じました。

私はこの派遣に参加して、オーストラリアと日本の文化は全然違うのだなと思いました。私が過ごしているのは広い世界のごく一部で、私はそのごく一部の世界しか知りませんでした。オーストラリアでは驚きの連続で、「世界はすごく広いのだな」と感じました。この経験は一生の宝物です。オーストラリアで感じたこと、考えたこと、全てを今後の学校生活や日常に生かしていきます。

この機会をくださった教育委員会の方々、台東区役所の方々、先生方、ALTの先生方、その他派遣に協力してくださった方々、本当にありがとうございました。

国際交流での成長と発見

浅草中学校 幡野 想士

私は、オーストラリア海外短期留学派遣を通して大きな成長と発見がありました。1つは英語力の向上です。私の両親が、海外に留学していた経験があり、私は英語圏の人達と関わる機会が多かったです。応募の前にもオーストラリア出身の方々と生活する機会があり、この海外派遣に応募するきっかけになりました。行く前の私の英語力はあまり高いものではありませんでした。それが大きく変化したのは、事前学習でALTの授業を何度か受けている頃からです。少人数で間近で授業を受けていたこともあり、要所の単語をピックアップして聞き取ることが少しずつできました。オーストラリアに着いて、初めはうまく聞き取れるか、会話ができるか、不安が多かったです。ピットウォーターハイスクールや、ホームステイ先で皆と会話を重ねていくことで耳が慣れていき、簡単な会話や質問であれば一回で聞き取ることができるようになりました。聞けるようになり、自然に会話ができるようにもなっていました。以前までの私は会話があまりうまくいかないことから話すことをちゅうちょしていましたが、今回の海外派遣を通して大きく成長ができました。最後にはしっかりと自分から質問や意見を伝えられるようになり、大きな一歩になりました。



もう1つは、オーストラリアの日常や文化について知ることが出来たことです。私たちは事前学習でオーストラリアについて様々なことを調べましたが、私はキャッシュレスが進んでいるということに、とても興味をもちました。実際にオーストラリアでは、会計で現金を使っている様子はあまり見られず、私も買い物ではカードを使いました。決済方法で驚いたのが、ホストファミリーとフェリーで出かけた時に、フェリーの乗船前にチケットを買わずに、乗船後に船員の方がカードのみで乗船代を徴収していることです。その他にも、オーストラリアは冬場でも日本のように冷え込むことがなく、海で泳いだりサーフィンをしたりしていました。

最後に、私はこの海外短期留学派遣で学んだことがあります。それは、当たり前なことだと思うのですが、世界中の人々は皆同じ人間であるということです。この海外派遣でオーストラリアに行く前、私は言葉や文化の壁から、日本とその他の国に住む人々は無意識のうちに全く違うものなのだと思っていました。日常から様々な言語が聞こえてくる浅草であるからこそ、私はその言葉一つ一つを知らないうちに雑音としてとらえてしまっていました。それは英語に対する勉強の意欲も同時に奪っていたのかもしれませんが、私は、英語は将来使わない言語だから覚えなくてもよいなどと、たまに考えてしまっていました。ですが、実際に海外に行き、言葉が通じない中で生活し様々な人と触れ合うことで、言語を積極的に知ろうと思う気持ちと、相手を知り仲間になることで言葉の壁をなくすことができることが分かりました。文化の壁は、相手を理解し、自分自身から歩み寄ることで超えることができると分かりました。実際に触れ、知らなかったことを知り、それが現実にある本物だと知ったときに、海外の人と私達は何も変わらないのだと分かりました。何よりも不安や緊張でいっぱいになっていた私を暖かく受け入れてくれ、接して下さったピットウォーターハイスクールの皆さんや、ホストファミリーにとっても感謝しています。また、同時にそこからとてもオーストラリアの人々の優しい人柄が感じられました。私は、今回の海外短期留学派遣に行けたことに心から感謝しています。この経験は何物にも代えられないものだと思います。この経験を大切に自分の体験をより多くの人に知ってもらえるように伝えていきたいです。

オーストラリアでの8日間

浅草中学校

松尾 梅乃

8月6日、待ちに待った海外派遣がいよいよ始まりました。

シドニー初日はブルーマウンテンズの視察をしました。ケーブルカーやトロッコに乗ったり、きれいな景色を楽しんだりしました。昼食時、少し体調が悪くなってしまったのですが、それでも楽しむことができました。夕食はオーギービーフでした。とても大きくて、早速日本との違いを感じました。

ピットウォーターハイスクールに初めて行く日、私はとても緊張していました。ですが、ピットウォーターハイスクールの生徒はとても積極的で、私のつたない英語を親身になって聞いてくれて、とても嬉しかったです。授業は前後のあいさつなしで始まり、自由な雰囲気が進んでいました。また、デジタル化が非常に進んでいて、生徒は自分のタブレットを使って教科書の内容を確認したり課題に取り組んだりしていました。英語で授業を受けるのは大変でしたが、バディが翻訳機能などを使って丁寧に説明してくれたおかげで授業に溶け込むことができ、ありがたかったです。

授業が5時間で終わると、ホストファミリーの家へと案内されました。とても広くてびっくりしました。どうやら日本に何度も観光に行っているらしく、食べ物だけでなく、家電や洗面用品なども日本製の商品が多かったです。また、夜ご飯を食べたレストランの店員さんの奥さんが日本人だったり、いろいろな人が日本語を知っていたりしたので、オーストラリアで日本は人気なのかなと思い、少し誇らしい気分になりました。

休日、私たちはオペラハウスに連れて行ってもらうことになりました。まず、OPALカードというsuicaのようなカードを買ってもらった後、バスに乗りました。オーストラリアのバスでは乗るときと降りるときの2回、カードを出さないといけませんでした。東京との違いを感じる瞬間でした。その後、オペラハウスまでフェリーで向かいました。その時、いつも見ているオペラハウスの写真は海から撮っていることが分かりました。オペラハウスはとても大きくて、遠くからでもすぐわかる形をしていました。また、帰るときにトラムという路面電車にも乗りました。東京では路面電車はなかなか見ることができないので、窓から見える景色がとても新鮮で楽しかったです。

8月13日、フェアウェルパーティーがありました。そして、ホストファミリーやバディとのお別れをしました。お土産も渡しあい、写真も撮って、最後にいい思い出ができました。でも、ホストファミリーやバディと離れるのはとても寂しかったです。

8月14日、待ちに待ったシドニー視察をしました。日本人観光客がとても多く、あちこちから日本語が聞こえました。NSW州ではコアラが抱けないようで、少し残念でしたが、楽しいシドニー視察になりました。

8月15日、日本に帰ってきました。とても暑くてびっくりするとともに、冬だったオーストラリアが恋しくもなりました。

私は自分の英語スキルを現地で直接確かめることができました。また、オーストラリアでたくさんの英語を聞いて過ごすことで、より自然な英語を学びました。これらは確実に私の力になったと思います。この機会を与えてくださった台東区に感謝して、次は私がこの海外派遣で学んだことを台東区や他の人に還元していけたらなと思います。

海外派遣で学んだこと

桜橋中学校

大塚 瑠眞

今回の海外派遣は、私にとって初めてのことや、新鮮なことで溢れていました。私は頭の中で「待ちに待ったオーストラリアに行けるという高揚感」や「言葉が通じないところできちんとやっていけるのかという不安」そして「台東区の代表生徒として現地の方々に日本や台東区の良いところを伝え、オーストラリアの文化をきちんと学んでくるという責任感」、こういった感情が私の頭の中を占めていました。しかし、その不安はピットウォーターハイスクールのみんなやホストファミリーの方々のおかげで徐々に薄まっていきました。

街に行き外出したり、学校に通ったりしていくうちに日本とオーストラリアの違いや新たな気付きがありました。特に学校やオーストラリアの人柄の違いがたくさんありました。まず学校では、教育方針が日本の学校と大きく異なっていました。日本の学校は学習をするだけではなく、学校行事を通してクラスメイトと仲良くなったり、クラスの連帯感を高めたり、協調性を学んだりしていますが、オーストラリアの学校は「学校はあくまでも、学習をする場であり、しつけをするところではない」と先生がおっしゃっていて、国が違くと学校の根本がこんなにも違うんだと思い、ピットウォーターハイスクールで過ごす日々がとても楽しみになったのを今でも鮮明に覚えています。そして次に感じた違いは、授業についてです。オーストラリアの学校は日本の学校よりデジタル化がはるかに進んでいて、ほとんどの教室にプロジェクターがあり、教科書や宿題はラップトップに映し出していました。授業もノートをとるというよりは、ラップトップに自分で資料や意見をまとめたりしていて感銘を受けました。また、中学生から選択授業を取り入れたり、お菓子やガムを噛んでいたり飲み物を飲みながら授業を受けているのにも衝撃が走りました。またオーストラリアは間食が多いなと感じました。学校では2時間目と3時間目の間に morning tea という時間があり、生徒は自分の家から持参したお菓子やフルーツを食べたり購買で買ったマフィンやカップケーキやアイスなどを食べたりしていました。人柄の面ではピットウォーターハイスクールの生徒は慣れない英語でとまどっている私に優しくゆっくりと話しかけてくれましたし、日本のことや私自身に対してたくさん質問をしてくれて温かいなと思いました。またホストファミリーの方々も私が言葉に詰まったり、言われていることについて理解が追いつかなくても「Don't worry」と声をかけてくれたり不慣れた日本語で話しかけてくれたりしました。オーストラリアの方々には困っている人に手を差し伸べられる優しい方々だと身に染みて思いました。

休日はホストマザーが忙しい中、たくさん素敵な場所に連れていってもらいました。土曜日はまず海へ行きました。海は太陽の光がきらきらと反射していて金波銀波の様でした。そのあとは2階建てのバスに乗りシドニーに行きました。シドニーはビルや建造物が高くそびえ立っていて美しかったです。オペラハウスは芸術的で本物でしか味わえない美しさを感じました。そして夜には星空を見に行きました。オーストラリアの夜は空気が澄んでいて星や月がよく見えました。消防署に行って火星などの惑星がどのようにしてできたのかや、それらの惑星の謎についての講演をしてとても興味深かったです。講演後いよいよ望遠鏡で星を見ました。その日は、オーストラリアの国旗に描かれている南十字星と月を見ました。日本ではなかなか見るのでできない光景に感動しました。最後に今回の海外派遣で私はオーストラリアの文化にたくさん触れ、日本との違いを身に染みて感じる事ができ、そして人の温かさをたくさん感じる事ができました。この経験を今後の自分の人生に活かしていこうと思います。

派遣学習を通して

桜橋中学校

酒井 優仁

僕にとって今回のオーストラリア海外派遣研修は、初めてのオーストラリアだけでなく初めての外国だったのでとても楽しみだったけれどしっかりと終わられるか不安でした。しかし、その不安はホストファミリーやピットウォーターハイスクールの皆のおかげでなくなりました。

3日目にシドニーのホテルを出て、ピットウォーターハイスクールに行き、歓迎会と授業体験をしました。モーニングティーやランチの時間にグラウンドへ行くとピットウォーターハイスクールの皆はたくさん話しかけてきてくれました。初めての海外でうまく会話できるか不安だったけれど、彼らが仲よく話してくれたのでとても安心することができました。

そして、翌日の金曜日にもピットウォーターハイスクールに行って、授業体験をしました。やはりグラウンドへ行くと、ピットウォーターハイスクールの友達がたくさん話しかけてくれました。たくさん質問をしてきて、アニメの話や僕の好きなサッカーの話などたくさん話すことができるととても楽しかったです。また、その日にあった日本語の授業では、日本のおもちゃを紹介させてもらう場面がありました。けんだまやだるま落としなどについての紹介をしました。うまく紹介できていたか分からないけれど、日本について真剣に学んでくれる皆の姿勢を見て、とてもうれしかったです。そのほか、この日に驚いたことはニワトリを捕まえる授業があったことです。最初は少しニワトリに触れることが怖かったけれど、抱え続けているとだんだん慣れてきてとても面白かったです。また、ヒツジやリヤマへの餌やりなども体験できました。日本ではしたことの無い経験でとても新鮮でした。

土曜日はバディのサッカーの試合とオーストラリアンフットボールの試合を見に行きました。どちらの試合もとても拮抗していて面白かったです。特にオーストラリアンフットボールの観戦は初めてで、体をガシガシとぶつけ合っているところにフットボールでしかあじわえない面白さがありました。そしてバディの試合観戦を終え、家へ帰る途中にピットウォーターについて教えてもらいました。とても大きな川があってそれをピットウォーターというそうです。実際に見てみるととても大きく少し先には島があってそれは、スコットランド島ということも教えてもらいました。その島にはピットウォーターハイスクールの生徒も住んでいるそうです。



日曜日は、ホストファミリーと一緒にルナパークへ行きました。ルナパークに行く前にハーバーブリッジやオペラハウスも見せてくれました。生で見るオペラハウスやハーバーブリッジはとても大きく迫力がありました。オペラハウスはとても芸術的で画像や映像では感じられない美しさがあると思いました。ルナパークに着いて最初に驚いたのは入口のゲートで、ピエロのような顔

があって面白かったです。最初に乗ったアトラクションは巨大なブランコのようなアトラクションで、左右に何回も揺れたり360度回転をしたりしました。揺れるときの重力がとても強くてとても怖かったです。その後、かなり気持ち悪くなってしまい少し休みましたが、とても楽しく面白かったです。夜はホストファミリーとバーベキューをしました。ラム肉や、ソーセージなどを焼いて一緒に食べました。お父さんがオイルをお肉に塗って焼くと火が大きく広がって美しくきれいでした。

月曜日は夜にファミリーと卓球対決をして最後の夜を楽しみました。

最後に、今回の派遣研修で僕はホストファミリーの方たちやピットウォーターハイスクールの皆にとっても優しくしてもらったと思っています。彼らのおかげで不安がなくなったし、楽しく過ごすことができました。だから、もし僕が留学生などを日本で迎え入れることがあれば積極的に話して、不安や緊張をなくして楽しませてあげたいです。



オーストラリア留学派遣について

桜橋中学校

塚原 香穂里

8月6日から8月15日、私たちは派遣生徒としてオーストラリアへ行きました。

私たちはオーストラリアで様々なことを学びました。異なる言語に、異なる文化。たくさんのことを学ぶ代わりに、たくさん不安も経験しました。ホームステイ先ではコミュニケーションのとり方に苦戦したり、ピットウォーターハイスクールでは日本の学校生活のスタイルとのギャップを感じたりと、とても大変でした。そんな環境下で私が学んだことは2つあります。

まずは、やはり言語力です。この派遣期間は10日間と、留学としてはとても短い期間でしたが、充実感はとても高かったです。その理由の1つとして挙げられるのは、異なる言語の中で生活できたことだと私は考えます。今は外国人観光客が増えているとはいえ、周りが英語を公用語として日常的に話しているという日本とはかけ離れている環境の中過ごしたことで、オーストラリアンネイティブが日常的に使う単語や発音などを少しは学べたと思います。ホストファミリーの方々やバディの人たちは、私たちにも理解しやすくするために、比較的ゆっくり話したり、できるだけ簡単な単語を使ったり、何度も繰り返したりもしてくれていましたが、最初は「CAN」の発音の理解に苦しみました。学校で学ぶアメリカ英語では、「CAN」のことを「キャン」と発音しますが、オーストラリアの方々は、それを「カン」と発音していました。その時は、前後の文脈やその時の行動などで、なんとなく理解していたのですが、「オーストラリアの人はカンと発音する」と言われたことを思い出し、そこでようやく「カン」は「CAN」ということが分かりました。日本では先生に質問したり、調べたりするなどをすればすぐに分かることですが、せっかくオーストラリアに来たのだから、とネットで調べずに、引率の先生にも聞かず、ホストファミリーに聞いてみようと思いました。結局聞く前に思い出したのですが、「知らない単語を先生にもネットにも頼らず自力で理解する」、という経験は今までに無く、とても貴重だったと思います。

もう1つは、文化の違いです。これは海外に行ったのだから当たり前といえば当たり前なのですが、ネットで見るのと肌で実感するのはだいぶ違いました。百聞は一見に如かずとは言いますが、まさにその通りだな、と思いました。海外、というかオーストラリアは基本的に多文化社会です。オーストラリアは世界から見ても多文化社会といえるほど「多様性」という言葉が浸透しています。実際、私のホストマザーはフランス生まれですが、結婚したのはオーストラリア人です。彼女の祖母はスペイン人で、南アフリカの血も混ざっていると言っていました。ピットウォーターハイスクールの人たちも、日本語を教えるほしいと積極的に話しかけてくれたり、教えた単語を目が合うたびに使ってくれたり、とても友好的な姿勢を見せてくれました。日本ではあまり見ない光景に最初は驚きましたが、「これがオーストラリアの普通なんだ」と思うと、不思議と腑に落ちました。

日本とは物理的にも文化的にもかけ離れているオーストラリアで、私はたくさん驚きと不安を経験しました。最初は不安のほうが大きかったかもしれませんが、ですが、それらのことを考慮しても、今回学べたことは経験しがたく、とても貴重だったと思います。私たちがオーストラリアへ派遣生徒として行った意味を考え、友達にこんなことがあったんだよ、と話したり、これからの人生に活かしていきたいと思います。



オーストラリアで学んだこと

桜橋中学校

永山 知秋

今回の海外派遣で感じたことは、「人との対話を完成させることに完璧な英語は必要ない」ということです。この派遣で初めて英語を話したのは飛行機内での機内食についての会話です。客室乗務員にご飯や飲み物について英語で聞かれました。全くもって難しくなかった英語だったため、難なくほしいものを伝えることができました。

オーストラリアを訪れて1日目、現地は日本と逆の北半球なので季節が冬ということを知っていました。真夏の日本からきた僕にとってのそこはものすごく快適な場所でした。その後、バスに乗りブルーマウンテンズに行きました。そこで、世界自然遺産に登録されたブルーマウンテンズのその大きさ、美しさに感動しました。そして、近くのレストランで昼食を取りました。昼食後は、少し移動した場所のシーニックワールドに行きました。シーニックワールドでは、保存されている太古の大自然を堪能しました。十分に歩き疲れた後はバスに乗りシドニーに向かいました。シドニーのホテルに到着し、その後ホテル近くのレストランで本場のオージービーフを食べました。今までに見たことのない大きさのステーキのジューシーさに感動しました。1日を終えてホテルに戻り思ったことは、「ほとんど英語を話していなかった」ということです。1日のほとんどの時間を友達や先生と活動したため、日本語だけで会話が完結していました。それを思い出すと、翌日からの学校生活が少しだけ、不安になりました。

翌日の朝、ホテルで朝食を食べ、PHS（ピットウォーターハイスクール）に向かいました。バディたちと初対面の状態で行った歓迎会はかなり緊張しながらも、ソーラン節の説明ができました。その後、学校の施設を見回っていて感じたことは、まるで映画の中に入ったような場所だった、ということです。授業を終えた後の休み時間ではグラウンドに行き、サッカーをしました。完全な初対面でしたが、話しかけた生徒たちがすごくフレンドリーだったおかげで馴染むことができました。正直、言われたことのほとんどは何と言っているのか全く理解できませんでした。それでも、仲良くなれた理由は自分の英語が理解されなくても、下を向かずにごんごん話しかけようとしたからだと思います。

学校が終わり、ホストファミリーと初めて対面しました。ミック（お父さん）の車で家に行くと信じられないほどの大豪邸がありました。その日は、スーパーに行き、夜ご飯などを買いました。また、週末はシドニーのテーマパークである「ルナパーク」に行きました。ホストファミリーとの生活はものすごく充実していました。そんな楽しい毎日も終わりの日が来ました。最終日のフェアウェルパーティでは、相手校のバンドの演奏を聴きました。そしてこちらからは、歌や踊り、プレゼント渡しなどをしました。もう友達とお別れ、ということで寂しい気持ちになりました。

PHSの生徒とホストファミリーと別れたその夜、シドニーのお洒落なレストランに行きました。最終日のシドニー散策では、初めにセント・メアリー大聖堂、オペラハウスに行きました。そして、シドニーの有名なパン屋に行きクロワッサンを食べました。昼食を終えた後はワイルドライフ・シドニー動物園に行き、絶滅危惧種などに指定された日本では見られないような貴重な動物を見ました。そして、路面電車に乗りホテルに戻りました。しかし、少し時間があつたので以前に行ったスーパーに行き、さらにお土産を買いました。

そして空港に行き、夜ご飯を食べたり、お土産を買ったりしました。飛行機に乗り落ち着くと、気付いたら寝てしまっていました。そして日本に着き、旅が終わったという実感を持ちました。上野駅で解散式を終えた後には、見えない緊張のようなものが抜けていく感覚がありました。

今回の海外派遣で僕にとって最も重要だった体験は、ピットウォーターハイスクールでの生徒たちとの対話です。「対話」というほど会話をすることができたかは分かりません。それでも、一人で英語の勉強をするより、面白く、楽しく、幸せに学べたはずです。今回の海外派遣で学んだこと、身に付いたことは、これからの国際交流の活動に率先して参加し、そこで活かしていきたいです。

仲間との十日間

桜橋中学校

林 彩蓮

今回の海外派遣は、台東区の代表として行く派遣学習だったため、慣れないことが山ほどありました。

初日、皆のご飯を食べたり家族で話をしていたりしましたが、私は緊張しすぎて何も食べられず、日本のお土産などのお店をお母さんとゆっくり見ていました。緊張していましたが、お母さんと過ごす時間は最後ということもありとても大切に、そして楽しく過ごせました。飛行機に乗るともう時間が寝る時間でした。寝ようとしたら全く寝られず一睡もできませんでした。幼いころは一瞬で寝られたのにと思いつつ、少しは成長したのかなとも思いました。

2日目はオーストラリアに着きました。どこに行ってもバタバタで、皆疲れていたしバスではほとんどの人が寝ていたそうです。ホテルに着き、やっとゆっくりできるかなと思っていたらゆっくりできず、夜ご飯を食べに行き、お風呂に入り歌と踊りの練習をして、写真を撮り寝ました。

3日目は、6時より少し遅れてモーニングコールがかかってきました。朝ご飯を食べに行くのにもバタバタでした。朝ご飯にフルーツが出てき、とても嬉しく美味しかったです。食べた後すぐに戻ってきて朝の準備を完璧に済ませ、学校へと向かいました。すぐ眠かったので寝ていたら皆の歌声で起きました。その20分後くらいに学校につきました。初めて海外の学校に行き、外国の生徒と触れ合ったので、とても緊張しました。でも、話してみると学校の皆に優しくしていただき、帰る頃には「コンニチハ～」と言われるほど仲良くなりました。

4日目は2回目の学校なので慣れていたものの、英語だけだと緊張しました。日本語を見たり派遣生を見たりすると安心しました。この日は初めて体育がありました。男女合同でドッジボールをすると聞き驚きました。スピードの速い英語も少しは慣れてきて、何を言っているのか少しずつ分かるようになり、とても嬉しかったです。夜にはホストファミリーとレストランに行くことに会い、嬉しくなりました。家に帰ると皆で映画鑑賞をしました。英語で話していましたが字幕は日本語にしてくれていたのので分かりやすく見られました。

5日目は少し遅めに起きました。朝ご飯を食べた後は船に乗りに行きました。思っていたよりも船の速さが速く、風が強くて気持ち良かったのですが少し寒かったです。波は高くなかったのですがたまに船が上がるのでジェットコースターみたいに一瞬心臓が浮いた感じがしました。その後は昼ご飯を食べてロックスに行きました。お目当ての物は無さそうでしたが、良い物が沢山あったのでお揃いに出来たらなと思いつつ見ながら見ていました。

6日目は朝起きてゲームをした後セブンイレブンに行き、アイスを食べました。日本では味わえないような美味しい味をしていてとても感動しました。日本にも置いて欲しいなと思いました。その後は北の海を車で見に行き、アポリジニの岩を見に行きました。その後家に帰ってきてご飯を作りながら映画を見ました。初日より猫が凄く懐いてくれました。とても嬉しかったです。猫の毛が洋服にたくさん付きました。

7日目は最後の夜という事もありBBQをしました。あまり上手く関われなかった妹のミアとトランポリンで沢山遊んで、仲を深められてとても嬉しかったです。その時に沢山ミアと英語で話せてよかったです。少しは自分の成長を感じられました。その後はフルーツを沢山食べ映画を見て寝ました。とても充実した日でした。

8日目はフェアウェルパーティーでした。最初の日は何度も間違えてしまったため、すごく緊張していましたが、部屋が一緒の子と沢山練習をしたので失敗せずに踊れました。その後はハグをして終わりました。感謝の気持ちを伝えられてよかったです。とても良かったです。

9日目は市内視察に行きました。とても良かったです。歩きすぎて疲れました。最後にアイスを食べたのですが、中国のお店だったらしく班の人に翻訳してもらいました。とても凄かったし感動しました。帰りの空港では、かわいいものや欲しいものが沢山あり、最後の買い物を楽しみました。

オーストラリアに行くと、日本では体験できないような驚きや感動があり、自分の国とは違う人とかかわることで新しい感覚にも出会いました。日本とは全く違い、初めての体験が多くとても楽しく過ごせました。

オーストラリアでの体験

駒形中学校

安藤 優吾

私はこの海外派遣で、オーストラリアと日本の文化の違いを体験し、国境を越えた友情を作ることができました。オーストラリアは日本とは季節が逆で今は冬でしたが、そこまで寒くはなく過ごしやすい気温で快適でした。到着した当日は、世界遺産であるブルーマウンテンズに行きました。日差しが強くとても眩しかったけれど、広大なオーストラリアの自然を目の当たりにし感動しました。

翌日からはピットウォーターハイスクールでの授業体験が始まりました。バディと初対面でコミュニケーションをとれるか不安でしたが、スケートボードが好きという共通点もありすぐに仲良くなることができました。授業ではバディがサポートしてくれたおかげで、内容を少しずつ理解することができました。数学の授業は、日本では小学生の時に習った内容で、日本との違いも知ることができました。また、授業時間が各1時間あり、1日5時間授業で日本よりも早く下校できることにも驚きました。現地では昼休みだけでなく、軽食を食べる「モーニングティー」の時間が午前中にありました。休み時間には現地の子と一緒にバスケットボールをして遊びました。学校では、現地の生徒たちがとてもフレンドリーに「こんにちは！」などと声をかけてくれて嬉しかったです。選択授業で「JAPANESE」というクラスもあり、日本との交流が多いように感じました。放課後には、ホストブラザーや学校で仲良くなった友達がショッピングセンターやスケートボードパークに連れて行ってくれました。私は少しスケートボードができるので、パークにいた子供たちと一緒に滑りました。英語が上手に話せなくても、スポーツや遊びを通じて交流することができたのがとても嬉しく、良い思い出になりました。

休日の土曜日は、ホストファミリーのいところが遊びに来ました。皆で公園に行ったり、ゲームをしたりして朝から大盛り上がりでした。午後は、バスケットコートに連れて行ってくれました。コートにいた子供たちと試合をして、交流することができました。日曜日には「city2surf」という14kmを走るシドニーでのイベントにホストファミリーといとこと一緒に参加しました。10万人以上の人々が参加するとても人気のあるイベントで、大迫力でした。大聖堂を通ったり、シドニーの街を一望できる絶景スポットで写真を撮ったりして、最終的に有名なボンダイビーチの所にあるゴール地点までたどり着くことができました。ゴールした時はとても達成感がありました。こんなに楽しい休日を作ってくれたホストファミリーに、心からの感謝の気持ちを伝えて、夜はぐっすり寝ました。

楽しい時間はあっという間で、始まったばかりと思っていたホームステイも、すぐに最終日になってしまいました。最終日の夜は、マザーが絶品のブリトーを作ってくれて、とても美味しかったので沢山おかわりをしました。その後、この5日間の感謝をできる限りの言葉でしっかり伝えました。学校最終日のフェアウェルパーティーには、現地校の8学年全員が集まってくれたので緊張しましたが、感謝の思いを込めて堂々と私たちの歌とソーラン節を発表できました。お別れの際には、バディや現地で仲良くなった友達が涙を流して別れを惜しんでくれて、私も泣きそうになりました。バディとTシャツを交換して、最後にハグをしてお別れしました。オーストラリア最終日にはシドニーを観光しました。特に動物園では特有の動物を見られたことが、興味深かったです。昼食に食べたクロワッサンとチョコケーキもとてもおいしかったです。

10日間という短い期間でしたが、とても貴重な経験が沢山できました。スポーツやゲームを通じて現地の生徒たちと交流し、つたない英語が通じた時の嬉しさは忘れられません。オーストラリアの文化や生活を、実際に滞在して体験できたことも特別な経験でした。事前研修から皆で協力して取り組み、大変なこともあったけれど、頑張った先にはこのような素晴らしい経験がありました。不安や心配があり、最初は申し込みを悩んだこの海外派遣研修ですが、勇気を出してチャレンジして良かったです。この研修に参加したことは、これからの私の人生の大きな力になると思います。

学びと発見があった十日間

駒形中学校

小林 理帆

初めての海外、初めての飛行機、初めてのホームステイ、初めての生活、すべて手探りでオーストラリアへ向かいました。飛行機の中では初めてということもあったのであまり眠れずにいました。

2日目にオーストラリアについたときにはいまいち、海外に来たという実感はわきませんでした。ブルーマウンテンズに行った時、雄大な自然が目前にあり、オーストラリアということを実感することができました。

翌日、初めてピットウォーターハイスクールへ行き、歓迎会で歌とダンスを披露しました。この日は、日本とオーストラリアの学校生活の違いにとっても驚きました。いくつものホワイトボードがあり、スクリーンを映して使っていたり、モーニングティーという中休みの的なものがあったり、驚きを発見できました。バディの子と初めて会った時はとても緊張していてあまり会話ができませんでした。一生懸命会話をしようとしてくれたり簡単な言葉にしてくれたりして嬉しかったです。初めての授業を受け、放課後にホームステイ先の家族と対面して色々なところに連れて行ってもらいました。そして、その日の夕食の後、ホームステイ先の子が水泳をしに行くので車に乗ってついていきました。その時、私は車酔いがひどかったことを言わずに車で戻してしまいました。その時は酔い止めを飲んでおらず、とても迷惑をかけたなど反省しました。しかし、ホームステイ初日だったのにも関わらず優しく接してくれてとても嬉しかったです。

4日目は2時間目に授業を受けていたら急にベルが鳴り、その時は何のことかわからず外に出ました。その後、避難訓練だったということが分かり、日本と変わらないのだなと思いました。その日も気分が悪くなり、引率の先生たちのいる部屋で放課後まで寝ていました。家に帰った後、気分が良くなり、家の近くの滝を見に行きました。ブルーマウンテンズとはまた違った自然を感じることができてよかったと思います。

5日目はネットボールとタグラグビーを見ました。子供たちだけの試合でしたがとても迫力がありました。

6日目は旧マンリー市とシドニー市へ連れて行ってもらいました。船からオペラハウスやハーバーブリッジが船の上から見えました。とてもきれいでした。

7日目は学校でのペアが違う人になって少し戸惑いもあったけれど、その生徒も優しくしてくれて嬉しかったです。ドイツ語の授業があって、他の教科も英語で分からなかったけれど、一番難しかったです。

8日目はホームステイ最終日でした。午後にフェアウェルパーティーがあり、とても広い体育館のようなところで歌とソーラン節を披露しました。私は歌の紹介をする役目だったのでとても緊張していましたが、ホストファミリーやバディの人たちが見えて頑張らないと、という使命感がわいてきました。歌は歌詞を間違えてしまったりリズムがずれてしまったりしたけど、全力を出せたかなと思います。ソーラン節では生徒の人たちがとても喜んでくれてうれしかったです。

オーストラリア最終日はシドニー散策でした。オペラハウスやセントメアリー大聖堂などオーストラリアの文化をたくさん見ることができて楽しかったです。その後飛行機に乗り、日本へ無事帰ることができました。

この派遣ではたくさん色々なことを学ぶことができました。この機会を作ってくださった教育委員会の方々、引率をしてくださった先生方、全力で協力をしてくれた家族には感謝しかないです。この経験を生かしてまた色々なことに挑戦していきたいです。

フレンドリーな地、オーストラリア

台東区立桜橋中学校 校長 関山 康紀



台東区の中学生海外派遣事業が再開され、本年8月6日、私たち派遣団は羽田を発ちました。

15年ほど続いたデンマーク、グラスサックセ市への派遣がコロナ禍で中止となり、改めて仕切り直しして、姉妹都市として以前の派遣先であったオーストラリア、ノーザンビーチ市が派遣先となり、同市並びにシドニー市で学ぶ機会が与えられました。

桜橋中を海外交流拠点校として行われていた以前とは異なり、グローバル教育推進校として上野中、桜橋中の2校を会場に事前学習会が進められ、発表会も各校実施となり、発表内容や学習内容なども大きく見直されました。また実施期間も10日と延長され、ピットウォーター校でのスクーリングやホストファミリーでの生活もおよそ2倍の日程となるなどより充実した内容の派遣でした。

ノーザンビーチ市がマンリー市と呼ばれていた時に、日本美術展をきっかけとして、市民相互の異文化交流の発展をめざして姉妹都市として提携しました。まさに今回の20名の参加生徒は市(区)民代表として相互の異文化交流の担い手となりました。この役割を果たすために6月から多くの時間を研修に費やしました。挨拶や自己紹介、日本文化を紹介できるような英会話練習、日本文化を伝える一助として唄や民舞の練習、オーストラリアを理解するための調べ学習など、集まる日以外も家庭で一人一台端末を利用して準備してきました。それだからこそ、彼らは会話や生活、学習を通じて多くのものを知り、学び、身に付けるとともに、日本や台東区のこと、自分の学校のことや自身のことなども含めて日本の文化や知識を提供できたのでしょう。ホストファミリーやクラスメイトにも日本びいきや日本行きを希望する人もきっと増えたと思われます。

オーストラリアの人々はおおらかで人付き合いが好きと聞いていました。英語が分からない人にも寄り添いコミュニケーションを図ろうとする人が多いとも聞いていました。今回訪れたピットウォーター校はまさにそんな場所でした。言葉やそのほかにも不安だらけの派遣団員を優しく受け入れ、コミュニケーションをとり、少しでも不安を減らそうという姿勢が見られました。シドニー市の班別研修でも店や施設の方の温かさに触れた生徒も多かったようで、もちろんホストファミリーにはそれ以上の温かさで包まれたようです。まさに姉妹都市という以上にフレンドリータウンとでも言いたいところです。

しおりの巻頭言で「限られた日数の派遣ではありますが、その中でどれだけ多く発信し、受け取れるか、またその両方が皆さんの学びとなるので、どれだけ多くを学べるのかは皆さん次第です。」と書きました。一人一人がどれだけのが得られたのかはわかりませんが、一つ言えることは派遣生徒は決して少なくないものを得たはず、そして一人一人みな違うはずです。これから行う発表会や授業、学校生活の中で多くのものを学校や友達に還元してくれることを信じています。皆さん、お疲れさまでした。また関係するすべての人に感謝申し上げます。

海外派遣を終えて

桜橋中学校 主幹教諭 佐野 奈津子

10日間のオーストラリアへの海外派遣、事前・事後学習…今年の夏は、20名の派遣生徒の成長を近くで見守り支えることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。事前学習初日は自己紹介やALTとの英会話等、緊張した表情も見られましたが、回を重ねるごとに仲間としての関りや声掛けが見られ、オーストラリアへ出発する頃には海外派遣へ向かう同志としての姿に変わっていました。

オーストラリアでは、まさに全てが学びの場！飛行機での機内食や狭い座席での睡眠、雄大なブルーマウンテンズ、歓迎会やフェアウェルパーティー、バディとの学校生活やホストファミリーとの触れ合い、シドニー市内視察…どの場面にも驚きや発見がありました。生徒は「英語って難しい！」と言いながらも、現地の学校生活やホストファミリーとの生活に慣れようと必死についていく姿が印象的でした。緊張と不安の中で、たくさんのかんじ、学んだのではないかと思います。

また今回の派遣では、英語や異文化を学ぶだけでなく、台東区の代表として、そして日本の中学生の代表として、日本の文化を伝えるという使命もありました。日本の歌やソーラン節を披露するために、日本で何度も練習をしましたが、本番ではどちらも練習以上の出来で、バディやホストファミリー、そして先生方に大きな拍手をいただきました。ホームステイ中もいろいろな場面で、日本文化や日本の中学生について知っていただけたのではないかと思います。

今回のこの海外派遣は、たくさんの方々のご尽力があつてこそ無事に終えることができたと感じております。特にPittwater High Schoolの先生方、ホストファミリーの方々、生徒の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。生徒の皆さんには感謝の気持ちを忘れず、そしてこの経験を大切に、これからの生活や将来に生かして行ってほしいと強く願います。

海外派遣で得るもの

忍岡中学校 主任教諭 佐久間幹彦

今回の海外派遣はコロナ禍での中断以降、初の派遣となりました。派遣地もオーストラリアに変わりましたが、派遣先がどこになっても変わらないものがあります。中学生という多感な時期にある生徒たちの成長の速さと変化の大きさです。

結団式を経て、事前学習開始直後の英会話授業では、まだ緊張から言葉をなかなか発することができない生徒が何人もいて、オーストラリアに行った先のことを心配したものです。現地到着後も、現地校と一緒に授業を受けるバディ生徒やホームステイ先の家族に会ってから、笑顔で過ごすまでに時間を要した生徒もいたと思います。また、全教科の授業を英語で受けることは、簡単に「挑戦してみよう」という言葉で済まない難しさがあります。彼らの様子からも苦労が見て取れました。しかし、バディ生徒たちが好意的だったこともあり、休み時間に現地生徒と一緒に遊ぶ生徒たちも現れ、バディに授業内容を聞くなど、積極的にコミュニケーションを取る姿が見られるようになりました。週末はホストファミリーと過ごし、数々の思い出を作ったと思います。その中で迎えたフェアウェルパーティーでは、バディたちや平日にもかかわらず仕事を休んで駆けつけてくれたホストファミリーと別れを惜しみ、涙を流す姿が見られました。バディ生徒自身だけでなくその周囲の友達までもその輪に加わっていたのは素晴らしい光景でした。

派遣事業再開に当たっては、区関係者をはじめ、たくさんの方々の多大なご苦労があったと思います。しかし、この時期の生徒たちに多くの変化のきっかけを与え、その周囲の人たちにさえ影響を与える本事業には大きな意義があると思います。また、不安もあったと思いますが、保護者の方々には派遣生徒をずっと見守っていただきました。全ての皆様の支えがなければ今回の海外派遣の成功はありませんでした。本当にありがとうございました。

海外短期留学派遣を終えて

上野中学校 教諭 早川 竣

オーストラリアの乾いた空気、爽やかな気温、気さくなオーストラリアの人々、おおらかな雰囲気、雄大な自然。私にとって、体験すること全てが新鮮で、発見の連続の日々でありました。派遣団生徒20名は、10日間を通して引率教員以上に多くのことを吸収したに違いありません。今回の派遣団でオーストラリアに行くことができたことは、本当に幸せなことでした。今回の中学生海外短期留学派遣の団員として携わる機会をいただいたこと、そして諸関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

今回の派遣団では台東区の代表として、「オーストラリアの人々に何を伝えるのか」、そして「何をオーストラリアから持ち帰り、自分の学校の生徒に伝えるのか」を意識してもらいたいと思い、日々生徒と接していました。事前指導やオーストラリアに到着してからも、代表である自覚を促すために声をかけることもありました。基本的にホームステイ先では、教員が細かく声はかけられないため心配していましたが、その心配はPittwater High Schoolのスクーリング最終日、フェアウェルパーティーのときに「要らぬ心配」であったことを悟りました。

パーティーの最後のお別れのときのことです。ホームステイ先の子どもやバディと抱き合う生徒、別れるのが寂しくて涙を流す生徒、良い表情ばかりでした。私は「文化の違いや言語の違いはあれども、確実に絆が生まれている。お互いを理解し、尊重しあう関係を結べている。」と確信しました。恐らく、この数日間で日本の良さを伝えることができたのでしょう。そして、オーストラリアの文化を直に体験できたのでしょう。そうしなければ、お互いを尊重するような関係は、数日で作ることはできないはずです。ぜひ日本でこの経験を伝え、そして広めて、国際社会の架け橋となってもらいたいものです。

今回のオーストラリアでの経験を、派遣団生徒がこれからの人生でどのように生かしていくか、楽しみでなりません。近い将来、日本を、そして世界をリードしていく人材となってくれるでしょう。僥倖にもこのような未来を担う20名を引率でき、関係者の皆様、特に受け入れてくださったPittwater High Schoolの皆様には感謝しております。本当にありがとうございました。

中学生海外短期留学派遣を終えて

台東区教育委員会指導課 指導主事 山崎 俊輔

派遣生一人一人が、緊張と期待の入り混じった表情でオリエンテーションを迎えていました。それは、引率する我々大人も同様で、「どのような生徒がいるのだろうか」「無事、成功して、実りある派遣にしたい」と強く願っていました。5年ぶりに行われるこの派遣事業は、行き先がデンマークからオーストラリアへと変更になり、国際社会に生きる生徒が英語に親しみ、英語を使ってコミュニケーションをたくさんとることができるように新たな試みとして行われました。

羽田空港を出発し、上野駅に到着するまでの9泊10日は緊張の連続でした。

皆無事で終わることができるのだろうか心配していましたが、ホームステイが始まり、Teamsに送ってくれた休日のホストファミリーと楽しそうに過ごす生徒たちの写真をみて、このプログラムに加わることができてよかったと改めて感じることができました。日本に帰ってきたとき、何かオーストラリアに忘れ物をしてきたような残念な表情と充実した表情が入り混じった生徒の様子が忘れられません。

生徒の皆さんが、オーストラリアで多くの人々に助けられ、愛情を注いでもらったことがよくわかります。このプログラムで経験したことや感動は一生、彼ら彼女らの心に残り続けるでしょう。

この中学生海外短期留学派遣が無事実施できたのは、指導主事の諸先輩方の助言をはじめ、引率の先生方など多くの国内外の方々の尽力があったからです。本当に感謝しています。来年度に向けて、改善点を生かし、更により良い中学生海外短期留学派遣が続くことを願っています。

このプログラムに参加した生徒のみなさんが、この経験を生かし、次のステージでも自分らしく輝くことを心から願っています。そして、大人になって様々な国々で活躍されることを期待しています。

あとがきによせて

台東区教育委員会指導課長 宮脇 隆

令和2年度から、新型コロナウイルス感染症の流行により、台東区ではデンマークとの交流事業が中止されてきました。今年度、5年ぶりに海外派遣が再開され、新たに、オーストラリアのニューサウスウェールズ州のシドニー市、姉妹都市であるノーザンビーチ市に派遣されることになりました。5年ぶりの実施に派遣生徒は、学校の代表としてだけではなく、台東区のひいては日本の代表という自覚をもち、それぞれの目標をもって臨みました。また、計画を立てた本事務局も手探り状態の中で、何とかこの事業を成功させなければならないという並々ならない気持ちで取り組んでまいりました。

選考は、書類審査や面接を通して各校から20名選ばれました。そして、教育長をはじめとする教育委員会関係者、保護者の見守る中、7月13日（土）に結団式が行われ、事前学習を積み重ねました。

桜橋中学校、上野中学校を会場とした事前学習では、ALTによる英会話講習やオーストラリアについて学習、シドニーのクリア事務所とオンラインで、現地に住んでいる日本の方にオーストラリアの様子を尋ねました。事前学習が進むにつれ、派遣生徒・引率の先生方との絆が生まれ、派遣団としてのまとまりが出てきたように感じました。出発式での派遣生徒のあいさつでは、オーストラリアでの派遣に対して、生徒の並々ならぬ意欲が伝わっていきました。

派遣先のオーストラリアでは、素晴らしい日々を過ごしたことと思います。桜橋中学校、上野中学校のホームページには、生徒たちの様子が毎日伝わってきました。授業体験やホストファミリーとの休日等、どれも充実した日々が掲載されていました。8月15日（木）に派遣を終えて、上野駅で派遣生徒の皆さんを出迎えたとき、名残惜しそうな表情を見せながらも、充実した日々を過ごせたという達成感が伝わってきました。教員が、ある生徒にオーストラリアはどうだったか聞いたところ、「とっても楽しかったです。英語をもっと勉強して話せるようになって、また行きたいです。」と笑顔で答えてくれたそうです。

今回の派遣に際しては、出発までの体調管理に細心の注意を払いながら行われました。しかしながら、ホームステイと学校生活を中心とした10日間は派遣生徒一人ひとりの心に一生残るであろう大きな感動と多くの学びをもたらし、将来の生き方や、未来へ進む原動力に多大な影響を与えたことでしょう。また、今年度の中学生海外短期留学派遣を契機として、その価値を高めて来年度以降の発展につながるものと確信しています。生徒には、この海外派遣で得た経験と自信を将来へ生かして行って欲しいと思います。

結びになりますが、この素晴らしい中学生海外短期留学派遣をコーディネートしていただいたニューサウスウェールズ州教育省の皆様、派遣生徒のために様々な気配りや心配りをしていただいたピットウォータースクールの校長先生はじめ、関係の先生方に改めて感謝の気持ちをささげるとともに、御指導いただいた区内中学校の校長先生をはじめとする先生方、そして、保護者の皆様にご心から御礼申し上げます。今後も本事業がますます発展していくことを祈念し、報告書のあとがきといたします。

令和6年度
中学生海外短期留学派遣報告書

発行 令和6年12月発行
発行者 台東区教育委員会指導課
〒110-8615
台東区東上野4丁目5番6号
電話03-5246-1453